

原子力に関する調査 結果報告書

2022年1月21日

調査結果を使用する場合は以下を遵守してください。

- (1) 『原子力利用の促進に資する目的』に限定する。
- (2) 引用使用する範囲は最小限とする。
- (3) 出典として「一般社団法人日本原子力産業協会」のクレジットを明記する。
- (4) データ・図表の加工は原則禁止。数字等のデータはそのまま使用する。



目次

■ 本レポートの概要	P2
■ 調査概要	P3
■ 調査結果の要約	P5
■ 調査結果の詳細	P22

報告書内の記述について

※n=30未満のデータは

参考値として掲載

※「＊」は非聴取項目

本レポートの概要

レポートの構成について

本レポートは以下の章立てで構成している。

◆ 調査概要

◇ 内容：調査の目的、調査手法、回収結果
集計・分析方法の解説

◆ 調査結果の要約

◇ 内容：結果から明らかになった事の要約と提言

◆ 調査結果の詳細

◇ 内容：設問ごとの詳細結果、解説コメント

記述について

グラフ内は、以下の通り記述を行っている。

◆ 回答形式について

SA … 単一回答

N … 数値回答

MA … 複数回答

FA … 自由回答

◆ 設問文下表記 集計ベースについて

※○○ベース … 回答者が限定されている設問

※全体ベース … 全員を回答対象としている設問

◆ 数表中の色について

n=30以上の場合

[比率の差]

全体 +10% 以上

全体 +5% 以上

全体 -5% 以上

全体 -10% 以上

・回答者全体（あるいは集計ベース）の結果と比率の差が大きいスコアに、左図のように色付けを行っている。

・調査結果の分析において、30サンプル未満の軸については誤差が大きいため参考値扱いとして色付け対象外としている。

調査概要

■ 調査目的 : 協会の理解促進事業の方向性検討のため、原子力に関する以下の内容について、世の中の認識を明らかにする。

- ①次世代層や子育て中の女性の、原子力にまつわる賛否
- ②協会の理解活動において、今後もっとも伝えるべき情報

■ 調査地域 : 全国

■ 調査対象 : 調査会社登録モニター 18歳～69歳 男女

■ 有効回答数 : 3,800名 大都市/地方で割り付け
 大都市：一都三県（東京、神奈川、埼玉、千葉）
 二府二県（大阪、京都、兵庫、奈良）、愛知
 地方：上記以外
 ※若年層を優先的に回収するため、
 右記の通り割り付けをした後、
 地域別人口構成でウェイトバックを行う

■ 調査方法 : インターネットリサーチ

■ 調査時期 : 2021年12月20日（月）～2021年12月24日（金）

■ 調査実施機関 : 株式会社マクロミル

■ 調査票URL : <https://www.macromill.com/airs/exec/pvRLAction.do?rid=1113614&k=d41e3aa6a6>

■ 回収構成 (n)

	大都市		地方		合計
	男性	女性	男性	女性	
18歳～24歳	250	250	250	250	1000
25歳～29歳	200	200	200	200	800
30歳～39歳	200	200	200	200	800
40歳～49歳	100	100	100	100	400
50歳～59歳	100	100	100	100	400
60歳～69歳	100	100	100	100	400
合計	950	950	950	950	3800

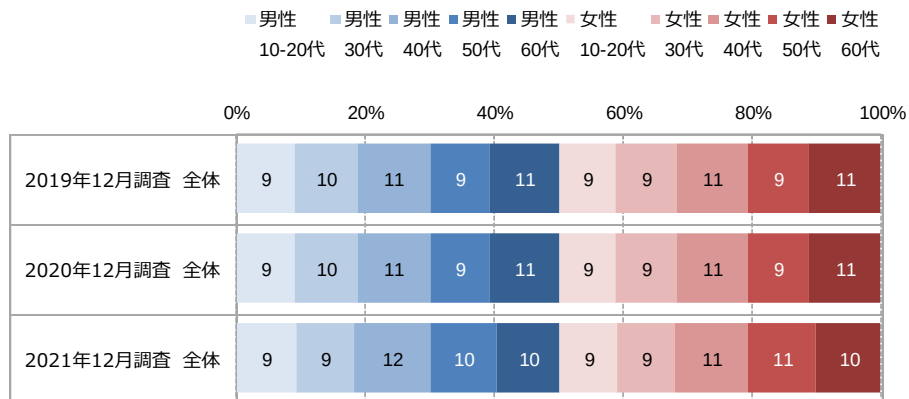
■ ウェイトバック後 (n)

	大都市		地方		合計
	男性	女性	男性	女性	
18歳～24歳	110	108	95	90	403
25歳～29歳	82	80	68	64	294
30歳～39歳	180	175	162	158	675
40歳～49歳	231	226	212	209	878
50歳～59歳	207	203	191	197	798
60歳～69歳	164	169	204	215	752
合計	974	961	932	933	3800

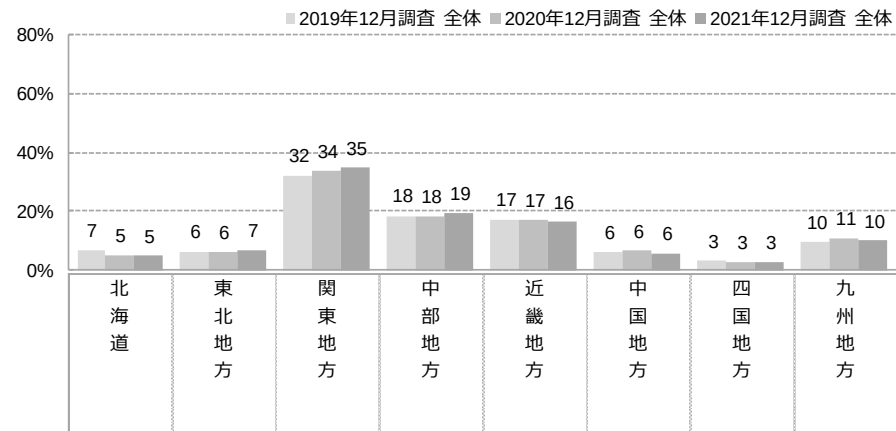
※本報告書における集計母数の表記は、データの信頼性を明示することを目的としている為、「ウェイトバック前の集計母数」を記載している。

回答者のプロフィール (n=3,800)

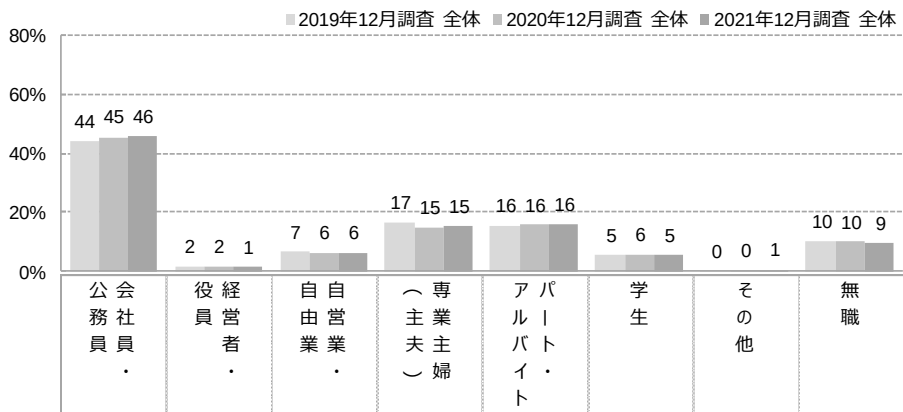
性年代



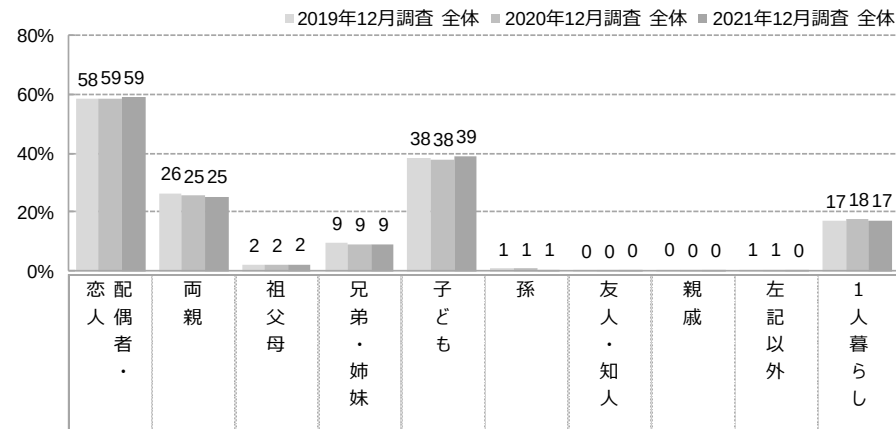
居住地域



職業



同居家族





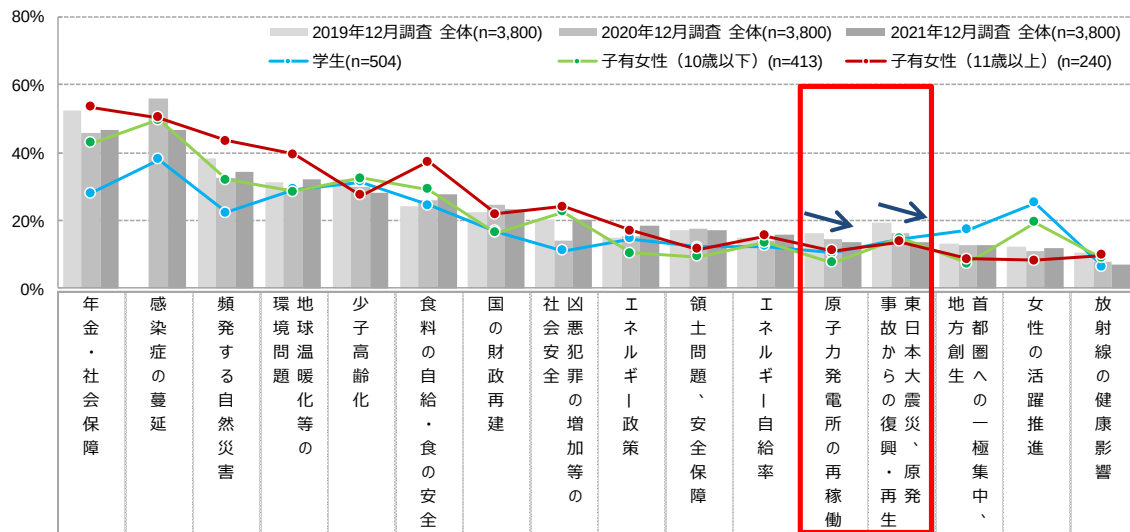
調査結果の要約

1. 原子力に対する関心と現在の行動

社会問題に関する関心の中でも、原子力関連のテーマに対する関心はやや減少傾向にある。

社会問題に対する関心

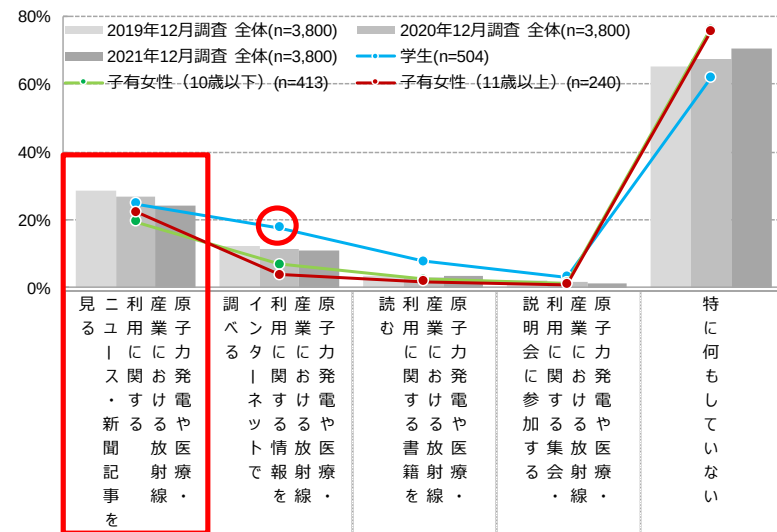
※全体ベース



※「2021年12月調査 全体(n=3,800)」のスコアで降順ソート

原子力に関する行動

※全体ベース



※「2021年12月調査 全体(n=3,800)」のスコアで降順ソート

分析



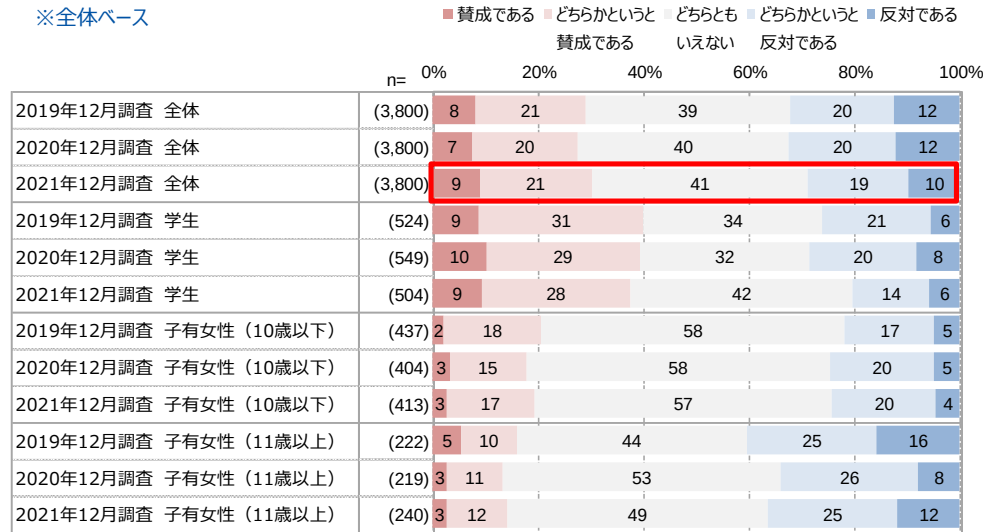
- 社会問題への関心をみると、原子力関連のテーマ（「原子力発電所の再稼働」「東日本大震災、原発事故からの復興・再生」）への興味度は、やや減少傾向にある。また、最も興味度が高いのは「年金・社会保障」。「感染症の蔓延」は昨年よりスコアが下がったものの、依然興味度は高い。
- 原子力に関する行動をみると、「特に何もしていない」の次に、「ニュース・新聞記事を見る」という人の割合が高い。また、学生は、「インターネット」からの情報収集に関して、他層より高くなっている。過去調査と同様の傾向である。「特に何もしていない」は年々増加傾向にある反面、「原子力発電や医療・産業における放射線利用に関するニュース・新聞記事を見る」は年々減少傾向にある。

2. 原子力発電に対する賛否

原子力発電の利用・再稼働については、賛成が微増・反対が微減している。

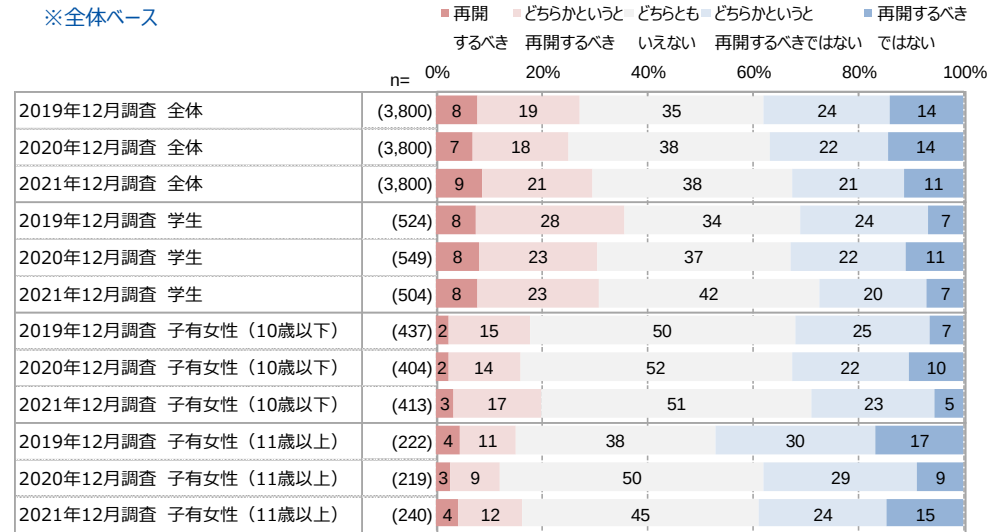
原子力発電の利用の賛否

※全体ベース



原子力発電所の再稼働の賛否

※全体ベース



性年代別傾向

原子力発電

	n=	賛成	中立	反対
男性10-20代	(900)	49	38	13
男性30代	(400)	48	33	18
男性40代	(200)	41	37	22
男性50代	(200)	37	31	32
男性60代	(200)	37	24	39
女性10-20代	(900)	22	56	22
女性30代	(400)	21	56	23
女性40代	(200)	16	51	33
女性50代	(200)	17	45	38
女性60代	(200)	15	42	43
男性18歳	(44)	45	37	18
男性19歳	(60)	44	47	10
男性20歳	(56)	53	38	9
女性18歳	(30)	10	42	48
女性19歳	(54)	24	51	25
女性20歳	(64)	12	59	28

再稼働

	n=	賛成	中立	反対
男性10-20代	(900)	44	39	17
男性30代	(400)	45	35	20
男性40代	(200)	43	33	24
男性50代	(200)	38	32	30
男性60代	(200)	39	19	43
女性10-20代	(900)	17	52	31
女性30代	(400)	19	50	31
女性40代	(200)	18	46	37
女性50代	(200)	17	42	41
女性60代	(200)	16	35	49
男性18歳	(44)	34	46	20
男性19歳	(60)	42	40	18
男性20歳	(56)	43	45	12
女性18歳	(30)	7	45	48
女性19歳	(54)	13	55	32
女性20歳	(64)	11	47	42

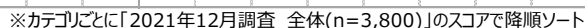
分析



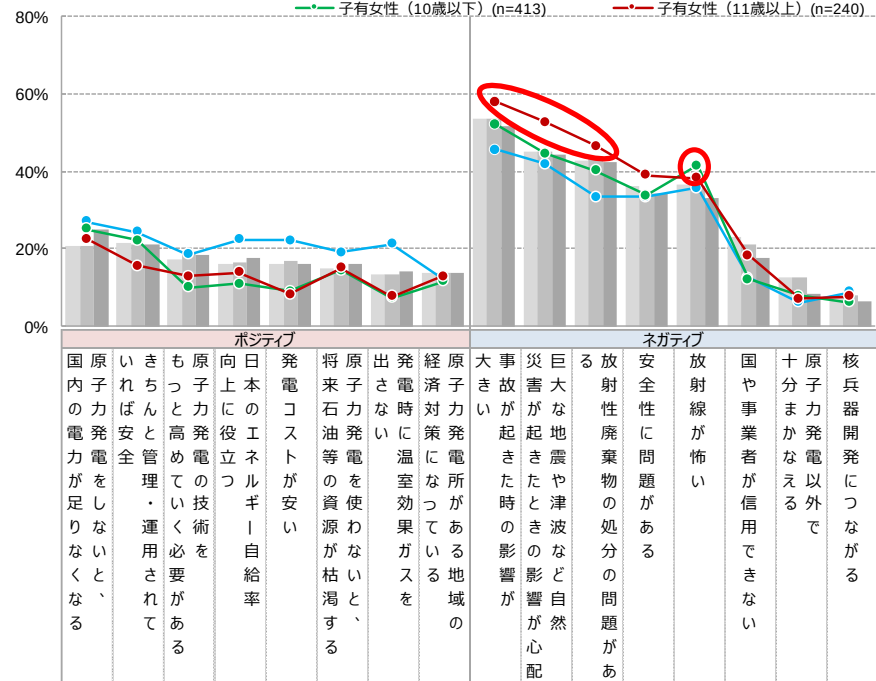
- 原子力発電の利用・再稼働についての考え方は、全体では賛成が微増・反対が微減しており、利用については賛成が反対を上回った。また、どちらともいえないという人も一定数存在しており、およそ4割を占める。
- 学生は過去調査同様に賛成の割合が他層より高い。
- 子有女性（10歳以下/11歳以上）はおおまかな割合に変化はない。また、利用・再稼働ともに子有女性（10歳以下）より子有女性（11歳以上）の方が反対の割合が高い傾向にある。
- 性年代別でみると、男性は賛成している人が多く、女性若年層では中立的な意見が過半数となっている。
- 原発再稼働について18歳と10-20代を比較すると、男女ともに18歳の方が賛成の割合が10pt低い。

原発に対してネガティブな考えを持つ人の割合は、ポジティブな考えを持つ人を大幅に上回っている。

※全体ベース



■ 2019年12月調査 全体(n=3,800) ■ 2020年12月調査 全体(n=3,800)
 ■ 2021年12月調査 全体(n=3,800) ■ 学生(n=504)
 ● 子有女性 (10歳以下) (n=413) ● 子有女性 (11歳以上) (n=240)



※カテゴリごとに「2021年12月調査 全体(n=3,800)」のスコアで降順ソート

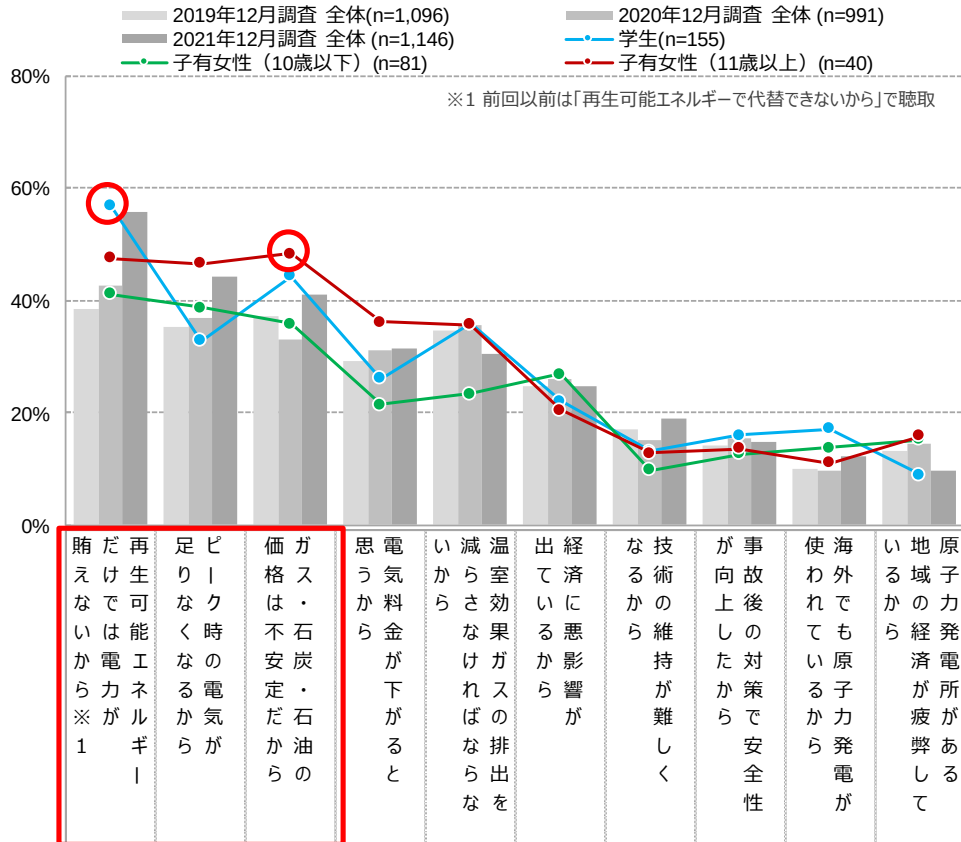
- 全体として、ポジティブな意見よりもネガティブな意見の比率が高い。
- また、全般的に賛成派と反対派で原発に対する考えに大きな乖離があり、特に“安全性”に関する意識の差がみられる。ただ、ネガティブな意見の「安全性に問題がある」という考えはやや減少傾向がみられる。
- 子有女性では「放射線の怖さ」、子有女性（11歳以上）では「事故/自然災害が起きた時の影響」「放射性廃棄物の処分の問題」などネガティブな意見が目立つ。

4. 原子力発電所再稼働 賛否の理由

賛成理由は、エネルギー不足に備えるがメイン。反対理由は、廃棄物問題、安全性、自然災害への対策が上位。

賛成理由

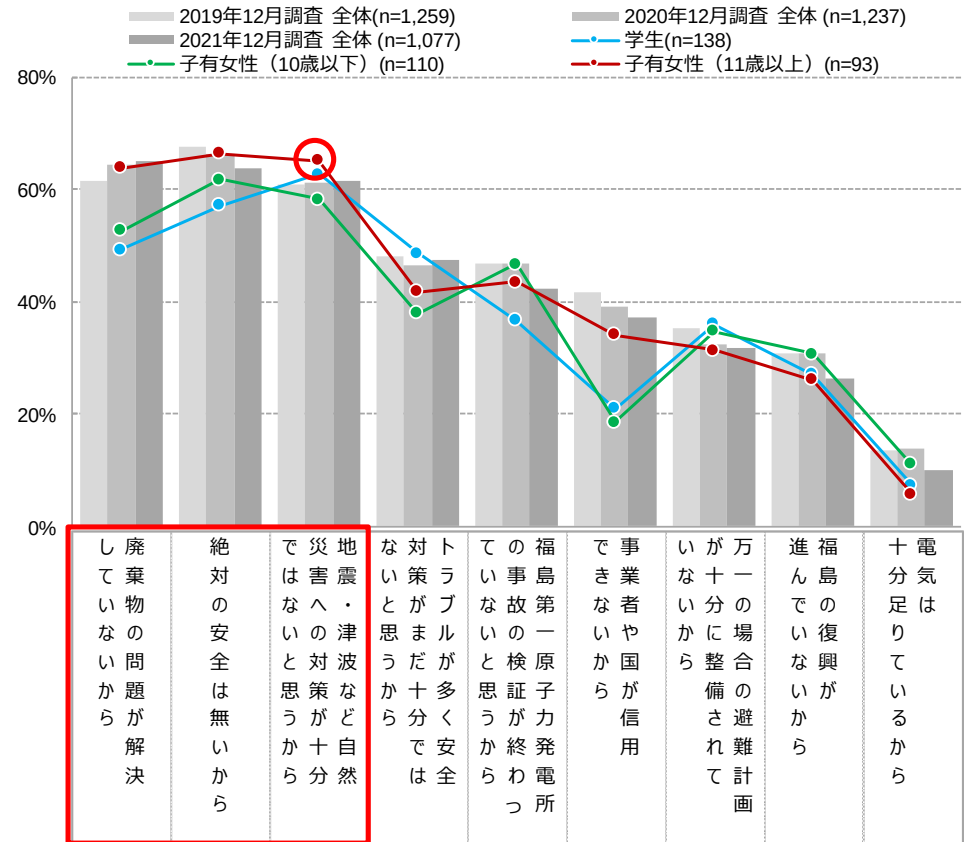
※原子力発電所の運転再開に賛成の方ベース



※「2021年12月調査 全体(n=1,146)」のスコアで降順ソート

反対理由

※原子力発電所の運転再開に反対の方ベース



※「2021年12月調査 全体(n=1,077)」のスコアで降順ソート

分析



- 賛成理由は「再生可能エネルギーでは電力が賄えない」の他、「ピーク時の電気が足りなくなる」「ガス・石炭・石油価格が不安定」といったエネルギー不足に備える理由が上位を占め、昨年から大きくスコアを伸ばしている。
- 子有女性（11歳以上）では「ガス・石炭・石油価格が不安定だから」、学生では「再生可能エネルギーでは電力が賄えない」が高い点が特徴的。

- 反対する理由は「廃棄物問題」「絶対の安全は無い」「自然災害への対策」が過半数を超えたスコアで上位。
- 子有女性（11歳以上）は「自然災害への対策が十分ではない」が全体よりも高い。

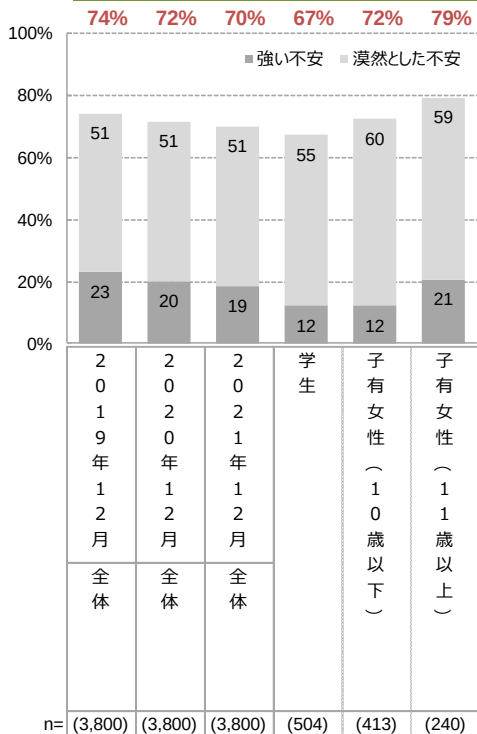
5. 原子力・放射線利用に対する不安

放射線利用よりも、原発に対する不安度のほうが高い。子有女性や高齢層で、不安度が高くなっている。

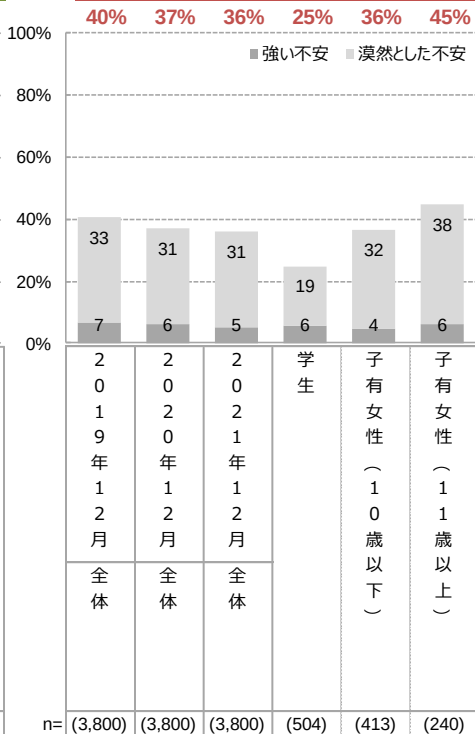
原子力・放射線利用に対する不安

※全体ベース

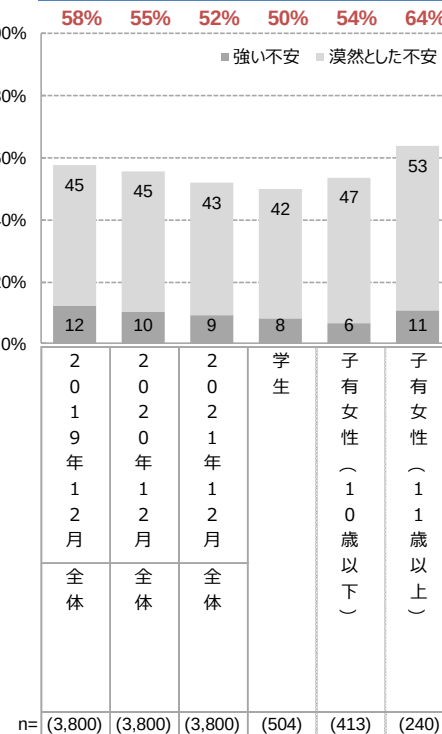
原子力発電



放射線医療利用

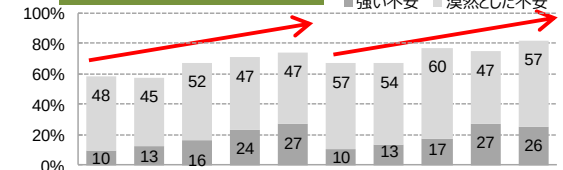


放射線産業利用

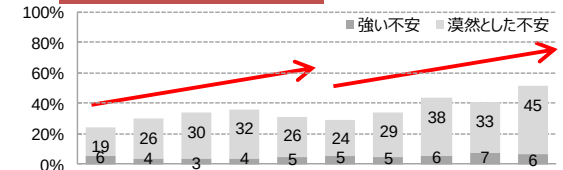


性年代別傾向

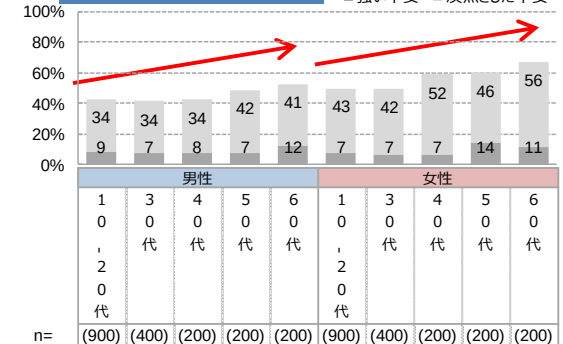
原子力発電



放射線医療利用



放射線産業利用



分析



- 原発に対する不安は、放射線利用に比べて高い。
放射線利用については、医療・産業ともに、原発に比べて「強い不安」の割合が低い。
- 全体としては、原発・放射線利用に対する不安は年々微減している。
- 原発、放射線利用ともに、不安を感じている人の割合は学生で低く、子有女性で高くなっている。
- 性年代別の傾向をみると、年代が高くなるほど不安を感じている人の割合が増加する傾向にある。

6. 「放射線」に関する情報の認知・関心_選択肢一覧

【選択肢（左）と報告書に記載の項目（右）】

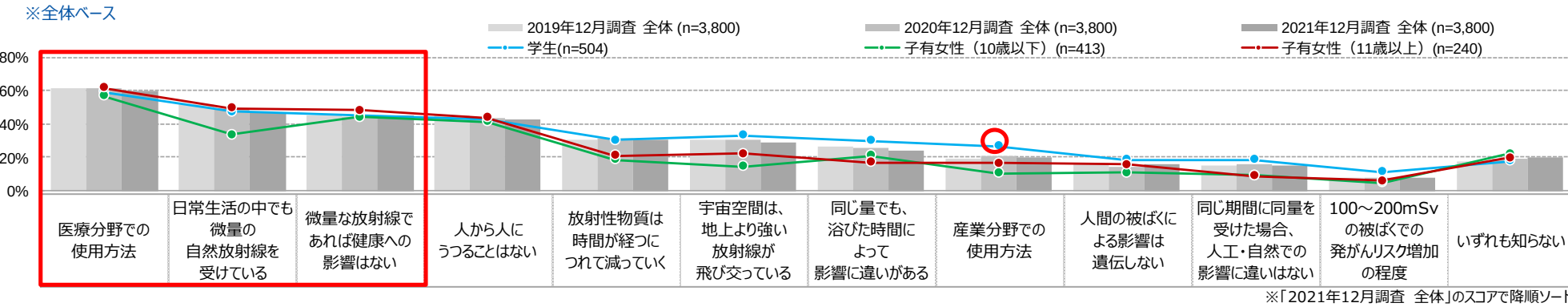
日常生活の中でも微量ながら、宇宙、大地、大気中、食物などからの自然放射線を受けている	⇒	日常生活の中でも微量の自然放射線を受けている
放射線は産業分野で、測定や検査、素材の改良、殺菌消毒、害虫駆除などに利用されている	⇒	産業分野での使用方法
放射線は医療分野で、レントゲンやCTなどの診断、ガンの治療に使われている	⇒	医療分野での使用方法
微量な放射線であれば健康に影響はないと言われている	⇒	微量な放射線であれば健康への影響はない
同じ量の放射線を浴びても、短時間で一挙に浴びた場合と長時間で少しずつ浴びた場合とでは影響に違いがある	⇒	同じ量でも、浴びた時間によって影響に違いがある
人間の放射線被ばくによる影響は遺伝しないと言われている	⇒	人間の被ばくによる影響は遺伝しない
避難指示の基準は年間20mSvだが、100～200mSvの放射線被ばくでの発がんリスクの増加は野菜不足や塩分の取りすぎと同程度と言われている	⇒	100～200mSvの被ばくでの発がんリスク増加の程度
放射線は、風邪のように人から人にうつることはない	⇒	人から人にうつることはない
放射性物質から出る放射線は時間が経つにつれて減っていく*1	⇒	放射性物質は時間が経つにつれて減っていく
放射線を同じ期間に同じ量を受けるのであれば、人工放射線でも自然放射線でも人体への影響に違いはない	⇒	同じ期間に同量を受けた場合、人工・自然での影響に違いはない
宇宙空間は、地上の数十倍から数百倍も強い放射線が飛び交っている世界である	⇒	宇宙空間は、地上より強い放射線が飛び交っている
いずれも知らない	⇒	いずれも知らない

*1 2019年以前は「放射性物質は時間が経つにつれて減っていく」で聴取

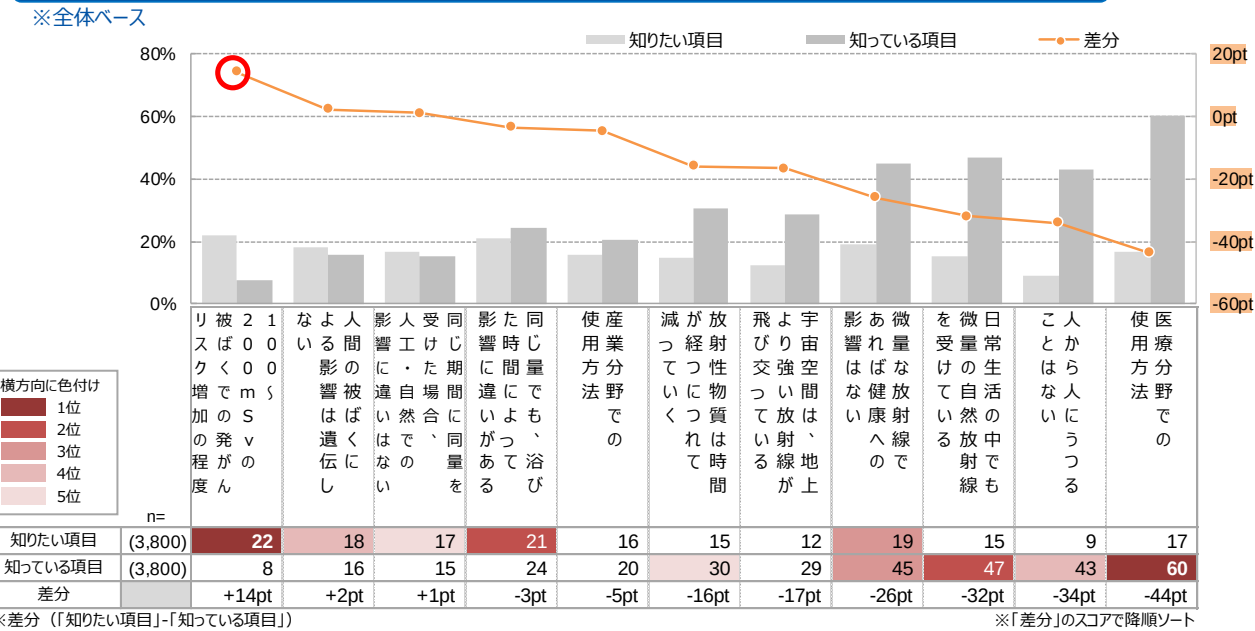
6. 「放射線」に関する情報の認知・関心

医療分野での使用方法、日常微量の自然放射線を受けている、微量な放射線は健康に影響がないことが、認知率上位に。

「放射線」に関する情報の認知度



“知っている”内容と“知りたい”内容のギャップ



分析



- 認知されている情報の上位は「医療分野での使用方法」「日常生活の中でも微量の自然放射線を受けている」「微量な放射線であれば健康への影響はない」で、約半数が認知している。
- 学生では、「産業分野での使用方法」の認知度が、他層より高い。
- 認知度が低い、知りたいという割合が高い情報は、「100～200mSvの被ばくでの発がんリスク増加の程度」といった内容。

7. 「放射性物質」に関する情報の認知・関心_選択肢一覧

【選択肢（左）と報告書に記載の項目（右）】

日本の食品や飲料水中の放射性物質の基準値は海外よりも10倍～100倍厳しい	⇒	日本の食品や飲料水中の放射性物質の基準値は海外よりも10～100倍厳しい
市場に流通している福島県産の農林水産物は全て、放射性物質の基準値を下回っている	⇒	市場流通している福島県産の農林水産物は放射性物質の基準値を下回っている
福島県産の米は全量全袋検査が行われていたが、2015年以降は検査されたすべての米が基準値以下であった	⇒	福島県産の米は検査が行われており、2015年以降すべての米が基準値以下* 1
消費者が福島県産の品物を避けることによって売上が落ちる状況が現在も続いている	⇒	福島県産品への風評被害が現在も続いている
福島第一原子力発電所の汚染水を浄化した水には、放射性物質のトリチウムが含まれている	⇒	福島第一原子力発電所の汚染水を浄化した水は、放射性物質のトリチウムを含む
放射性物質のトリチウムは基準値以下に薄めて放出すれば動物や植物への影響はないと言われている	⇒	放射性物質のトリチウムは基準値以下に薄めれば動物や植物への影響はない
高レベル放射性廃棄物の処分施設建設地の選定のための文献調査が2つの自治体で開始されている	⇒	高レベル放射性廃棄物の処分施設建設地の選定のための調査が2つの自治体で開始されている
いずれも知らない	⇒	いずれも知らない

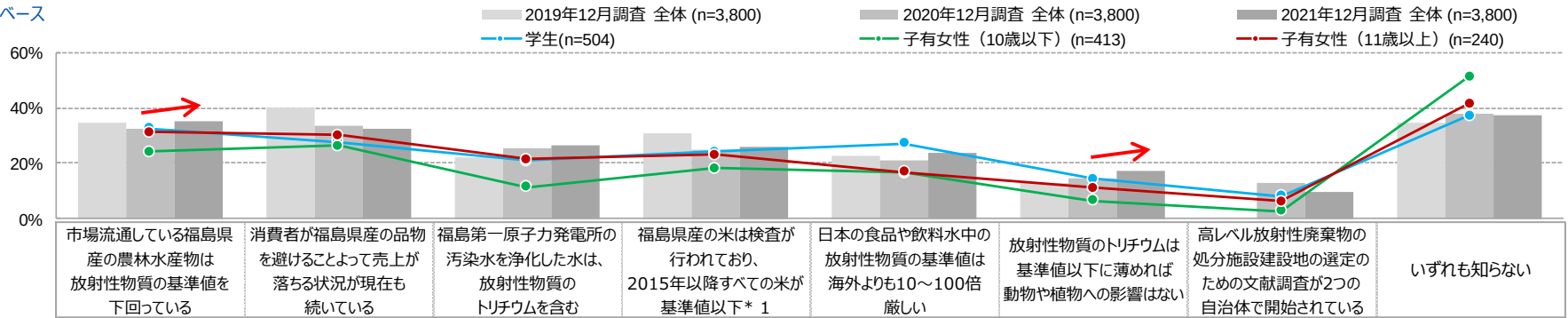
*1:2019年以前は「福島県産の米は全量全袋検査が行われており、2015年以降は検査されたすべての米が基準値以下であった」で聴取

7.「放射性物質」に関する情報の認知・関心

福島産農林水産物は放射性物質の基準を下回っている、福島県産品への風評被害が続いていることは、4割弱に認知されている。

「放射性物質」に関する情報の認知度

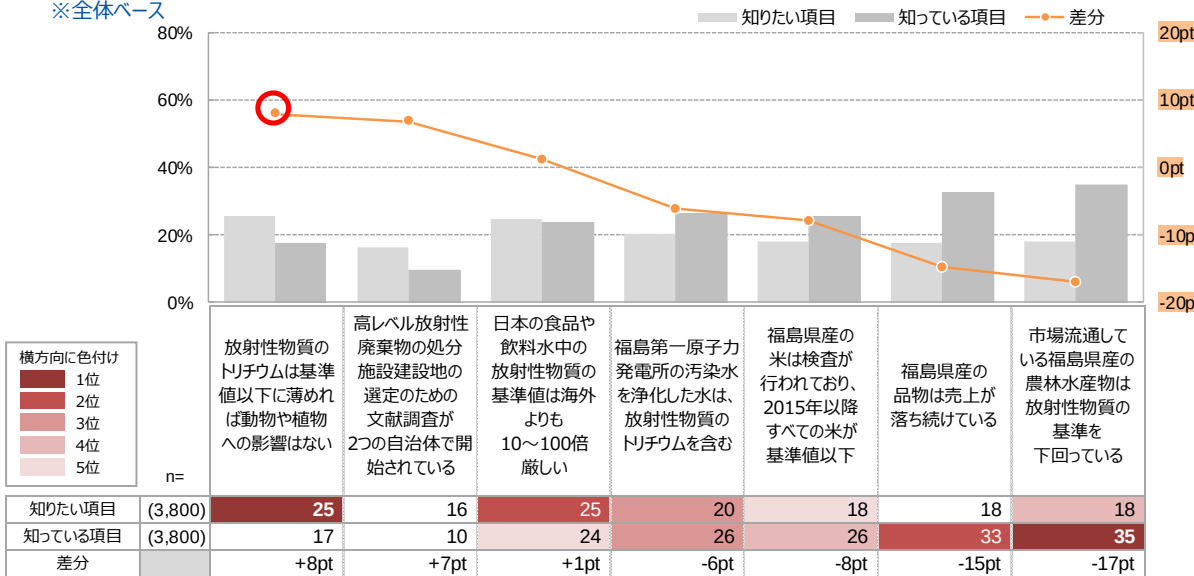
※全体ベース



※「2021年12月調査 全体」のスコアを降順ソート

“知っている”内容と“知りたい”内容のギャップ

※全体ベース



※差分（「知りたい項目」-「知っている項目」）

※「差分」のスコアを降順ソート

分析



- 認知されている情報の上位は「市場流通している福島県産の農林水産物は放射性物質の基準を下回っている」「福島県産品への風評被害が現在も続いている」で、およそ4割に認知されている。
- 「市場流通している福島県産の農林水産物は放射性物質の基準を下回っている」「放射性物質のトリチウムは基準値以下に薄めれば動物や植物への影響はない」については、認知率が微増している。
- 認知度が低いが、知りたいという割合が高い情報は、「放射性物質のトリチウムは基準値以下に薄めれば動物や植物への影響はない」といった内容。

8. 「エネルギーや地球温暖化」に関する情報の認知・関心

【選択肢（左）と報告書に記載の項目（右）】

二酸化炭素などの温室効果ガスは地球温暖化の要因となっている	⇒	二酸化炭素などの温室効果ガスは地球温暖化の要因となっている
日本はエネルギーの海外依存度が高く、国際情勢によってエネルギーの価格や調達できる量が影響を受けやすい*1	⇒	日本はエネルギー海外依存度が高く、国際情勢によってエネルギー価格や調達量の影響を受けやすい
原子力発電所は発電の際に、二酸化炭素を排出しない	⇒	原子力発電所は発電の際に、二酸化炭素を排出しない
電気料金が高くなると経済活動や家計に負担がかかり、雇用や給料にも影響が及ぶ	⇒	電気料金が高くなると経済活動や家計に負担がかかり、雇用や給料にも影響が及ぶ
再生可能エネルギー普及のために2020年度は年間2.4兆円（消費税1%増に相当）が電気料金に上乗せされ、この上乗せ額は2030年度までに年間3.1兆円に増える見込みである	⇒	再生可能エネルギー普及のため2020年度は年2.4兆円が電気料金に上乗せされ、2030年度までに年3.1兆円に増える
2011年以降の原子力発電所の停止により電気料金は値上げされたが、その後原子力発電所を再稼働した電力会社は電気料金を値下げした	⇒	2011年以降の原子力発電所の停止により電気料金は値上げされたが、その後原子力発電所を再稼働した電力会社は電気料金を値下げした

*1 2019年度まで「日本はエネルギー自給率が低く、国際情勢によってエネルギー価格や調達量の影響を受けやすい」で聴取

8. 「エネルギーや地球温暖化」に関する情報の認知・関心

エネルギーや地球温暖化等の情報と比べて、原子力に関する情報は認知が低い。

分析

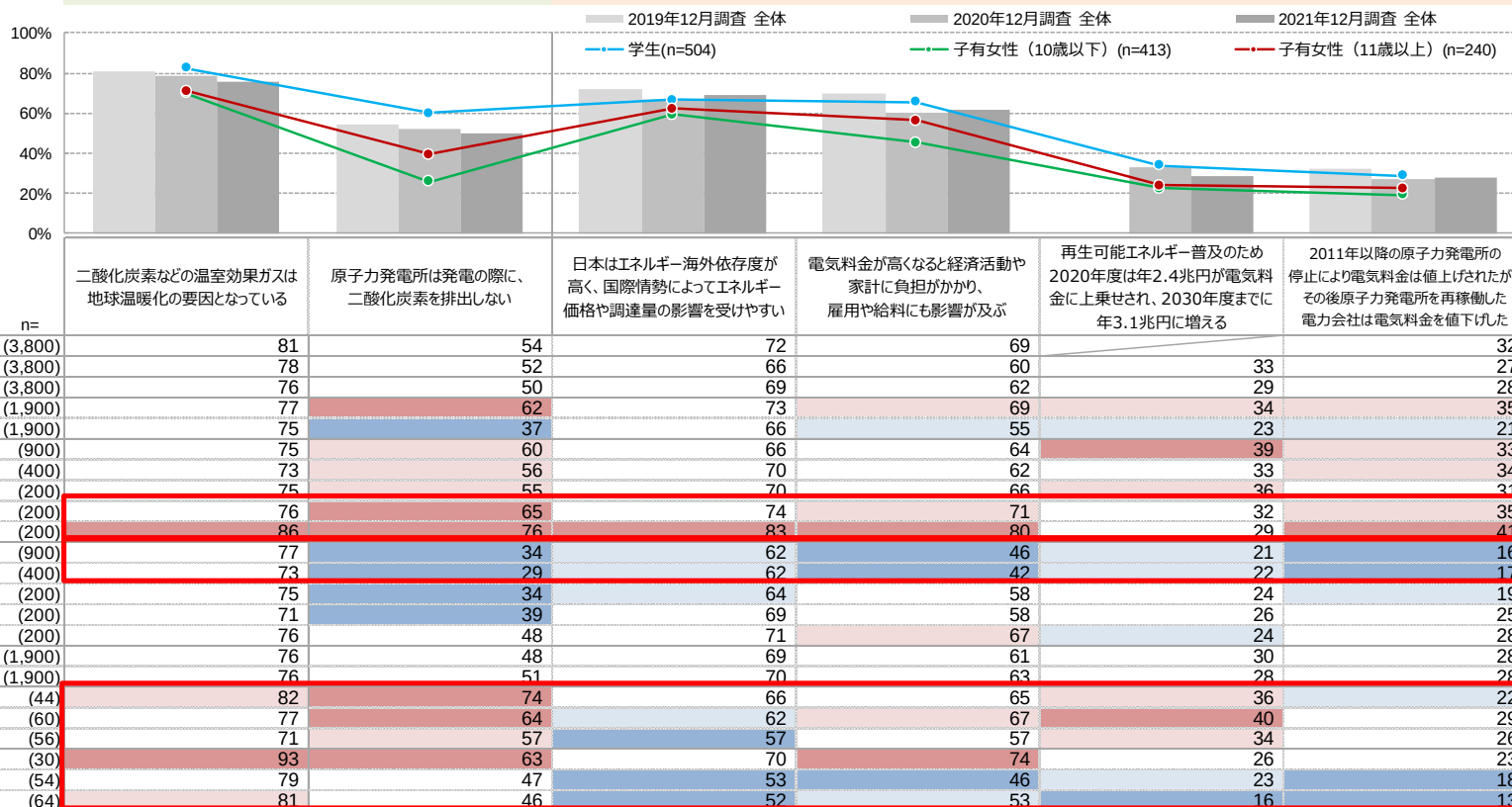


- 認知されている情報の上位は「温室効果ガスは地球温暖化の要因」で、約8割に認知されている。
- 「原子力発電は二酸化炭素を排出しない」「再生可能エネルギー普及のため電気料金に上乗せされている」「2011年以降の原子力発電所の停止により電気料金は値上げされたが、その後原子力発電所を再稼働した電力会社は電気料金を値下げした」といった原子力に関する情報は、他の情報に比べて認知が低い。
- 性年代別の傾向をみると、エネルギーや地球温暖化に関する情報全般の認知は、男性年配層で高く、女性若年層で低い。
- 18-20歳においては、男女ともに年齢が上がるにつれ認知率が下がる項目が多い。

「エネルギーや地球温暖化」に関する情報の認知度

※全体ベース

n=30以上の場合
※全体=2021年12月調査 全体
[比率の差]
全体 +10% イト
全体 +5% イト
全体 -5% イト
全体 -10% イト



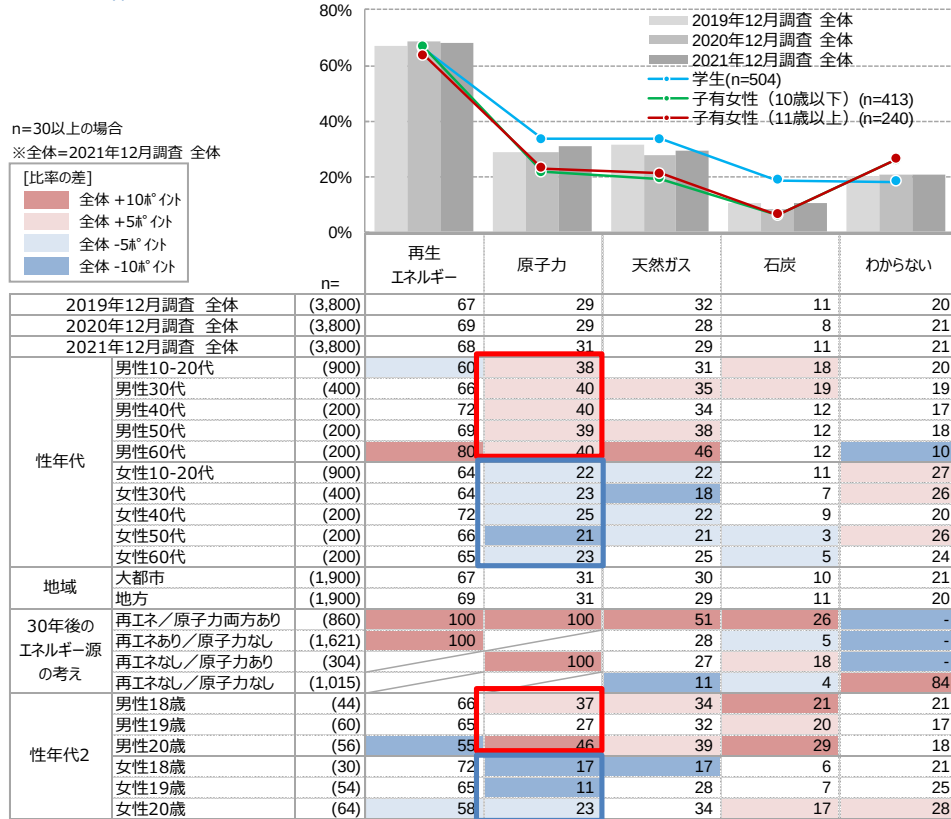
※斜線の項目は2019年調査では非聴取

9. 30年後の電力エネルギー源に対する考え

30年後のエネルギー源だと思うものは、再生可能エネルギーが突出。環境問題への貢献が期待されている。

30年後のエネルギー源だと思うもの

※全体ベース



再生可能エネルギー、原子力発電に期待する役割

※各エネルギー、30年後の電力エネルギーだと思う人ベース



分析

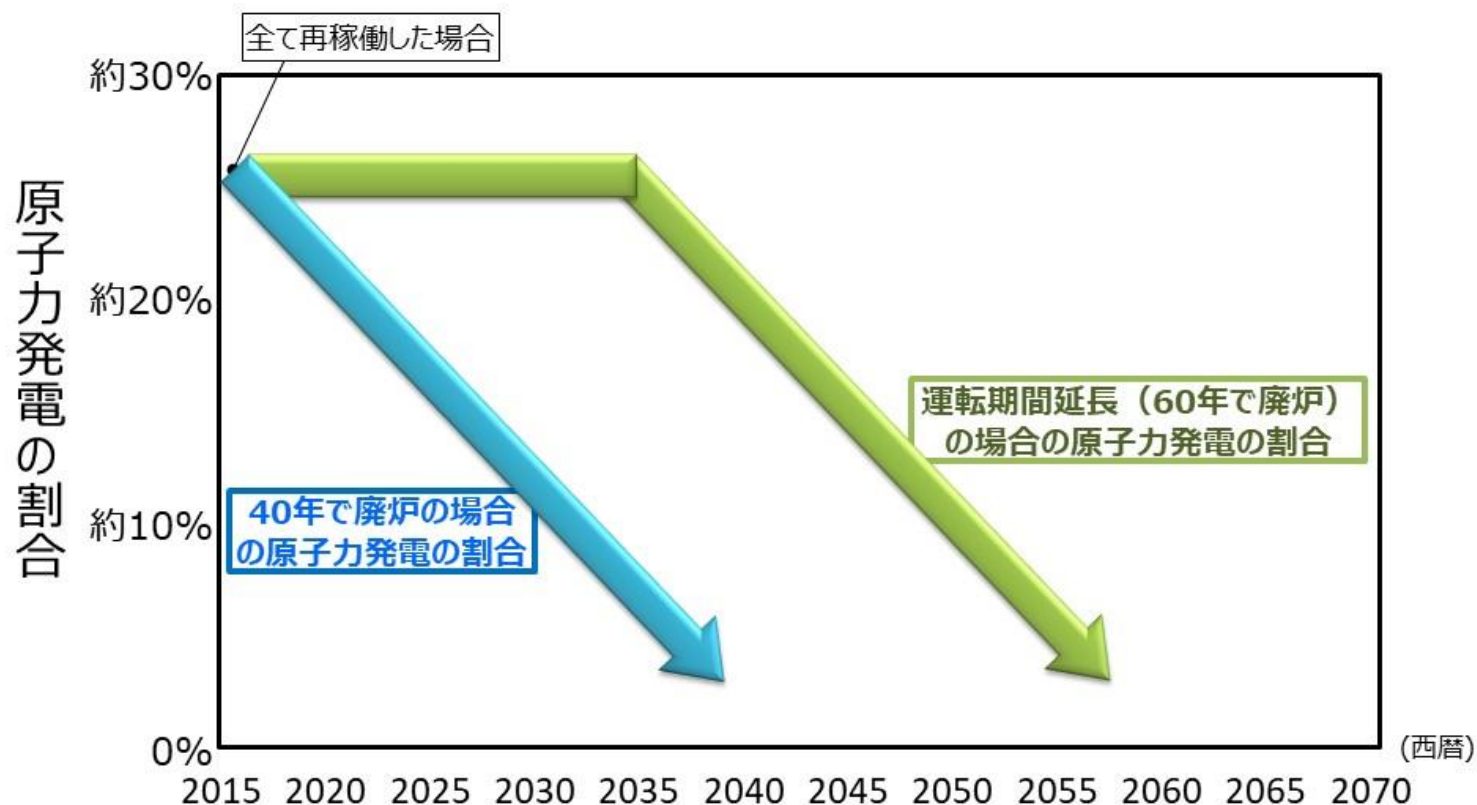


- 30年後のエネルギー源だと思うものは「再生可能エネルギー」が突出。「原子力」は「天然ガス」と同程度で、「石炭」より高い。前年度と比べて「原子力」は微増。
- 性年代別でみると、男性は、全体的に「原子力」が高い一方で、女性は全体的に「原子力」が低い。18-20歳男女に関しても同様の傾向。
- 再エネ/原子力両方あると思う人は、他のエネルギー源も高く、幅広いエネルギー源があると考えている。
- 原子力より再生可能エネルギーに期待が高い役割は、「地球温暖化防止」「大気汚染防止」「石油・天然ガス・石炭の輸入に頼らない」となっている。

10. 新規原発建設賛否と原発の運転期間

【Q8に関する説明画像】

原子力発電所を運転できる期間(運転期間) は40年とされており(延長して60年)、
2040年頃(延長で2060年)には、今ある原子力発電所のほとんどが運転期間の終了を迎えます。
今後も原子力発電を使う場合は、必ず**新規建設が必要**になります。



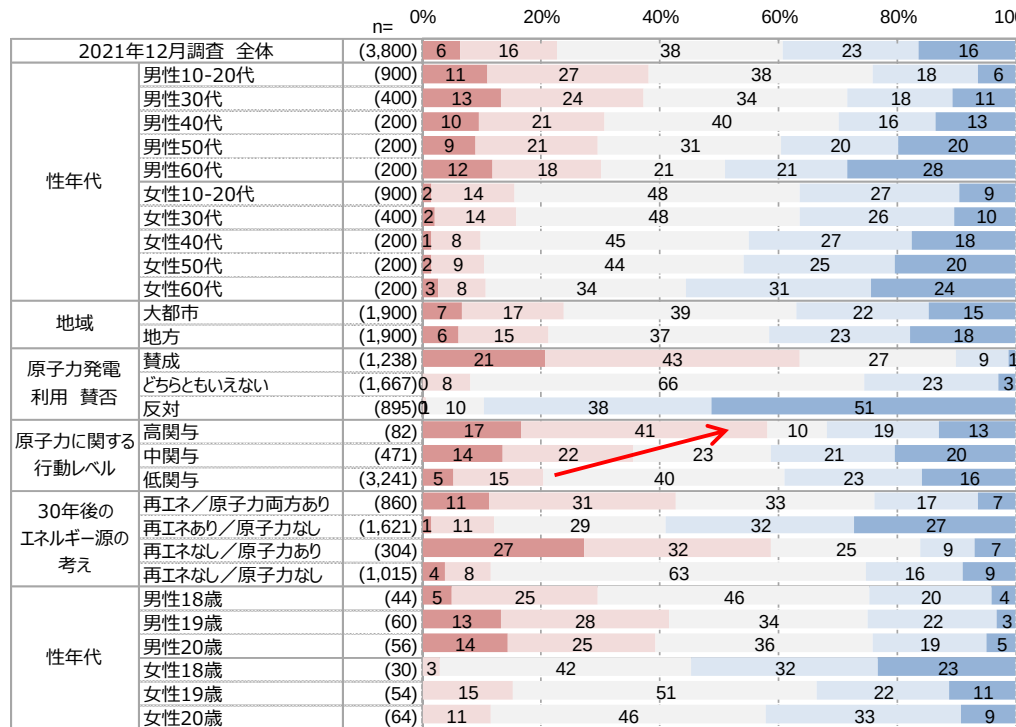
10. 新規原発建設賛否と原発の運転期間

新規原発建設について、賛成は男性で約3割、女性で約1割。原発運転期間と延長認知は年代が上がるごとに増加する傾向。

新規原発建設賛否

※全体ベース

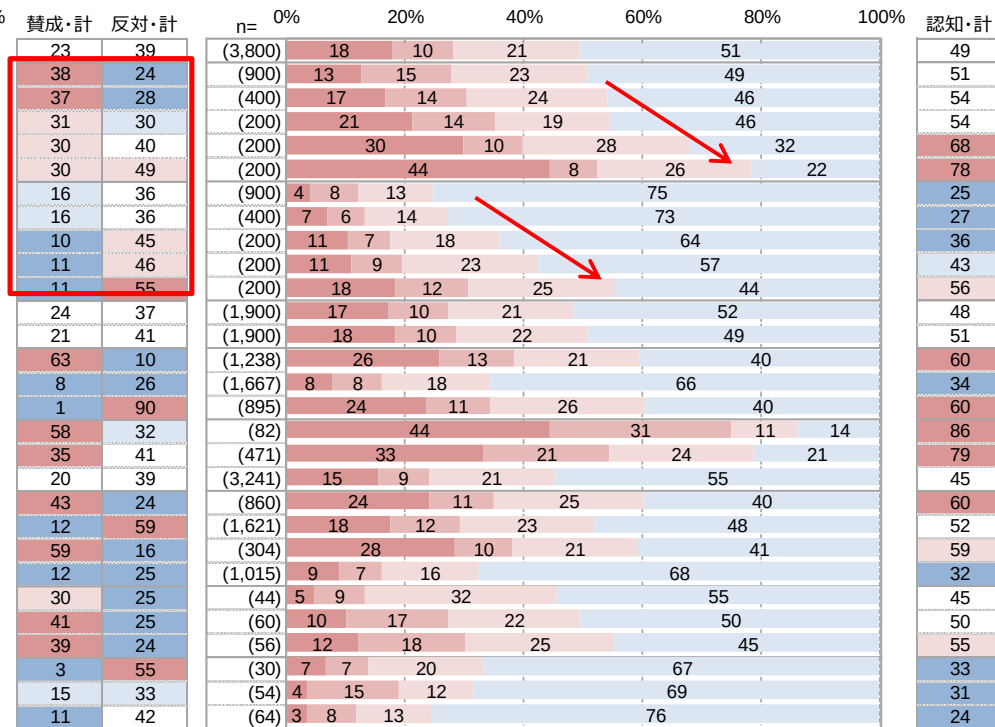
■ 賛成である ■ どちらかという ■ どちらとも ■ どちらかという ■ 反対である
賛成である いえない 反対である



※賛成・計（「賛成である」＋「どちらかという賛成である」）／反対・計（「どちらかという反対である」＋「反対である」）

原発運転期間と延長期間認知

■ 40年運転および20年運転延長可能を知っていた
■ 40年運転を知っていたが、運転延長については知らなかった
■ 原子力発電所の運転に年数制限があることは知っていた
■ 原子力発電所の運転に年数制限があることは知らなかった



※認知・計（「40年運転および20年運転延長可能を知っていた」～「原子力発電所の運転に年数制限があることは知っていた」）

分析



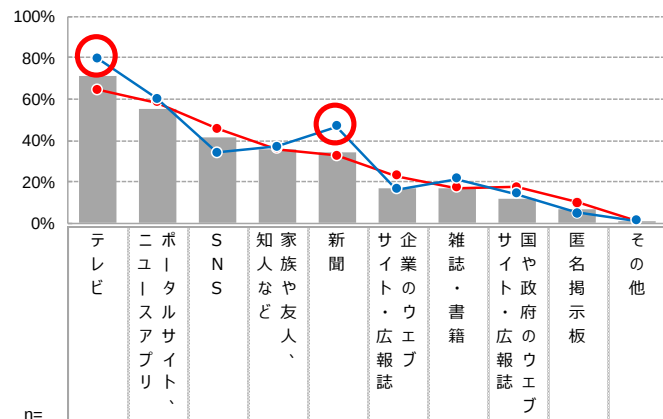
- 新規原発建設の賛否は、性年代でみると全体的に男性は賛成の割合が高く、女性は反対の割合が高い。
- 原子力に関する行動レベルが高くなるほど、新規原発建設に賛成の割合が高くなる。
- 原発の運転期間と延長期間の認知率は、全体的に女性より男性の方が高い。また、男女ともに年代が上がるにつれて認知率が高くなる傾向にある。
- 新規原発建設賛否・原発運転期間と延長期間認知ともに、大都市と地方でスコアの差はあまり見られない。

11. 普段の情報収集源と信用度

情報源は、テレビ・ポータルサイト、ニュースアプリが上位。原発利用反対層は、テレビ・新聞での情報収集率が高い。

普段の情報収集源

※全体ベース



各発信源からの情報への信用度

※全体ベース

	テレビ		新聞		雑誌・書籍		ポータルサイト、ニュースアプリ		SNS	
	信用・計	非信用・計	信用・計	非信用・計	信用・計	非信用・計	信用・計	非信用・計	信用・計	非信用・計
全体	61	10	74	5	59	4	52	8	31	19
性年代										
男性10-20代	51	17	71	7	68	5	56	8	36	22
男性30代	55	14	66	6	74	3	60	6	29	19
男性40代	60	11	73	5	55	5	41	7	31	15
男性50代	65	8	68	6	62	2	49	9	15	17
男性60代	65	9	77	8	52	10	48	11	34	21
女性10-20代	64	11	79	3	72	4	60	8	41	21
女性30代	63	9	73	6	76	3	56	9	33	18
女性40代	61	11	82	0	52	6	54	5	25	16
女性50代	59	12	75	6	63	0	52	9	25	22
女性60代	61	3	75	3	33	0	58	6	32	16
性年代2										
男性18歳	43	11	85	0	58	0	54	5	33	15
男性19歳	47	11	54	0	56	0	44	8	30	28
男性20歳	55	14	87	0	77	0	61	18	18	54
女性18歳	70	5	81	0	65	18	48	26	38	28
女性19歳	76	6	75	11	68	0	73	6	58	18
女性20歳	74	7	100	0	53	32	83	6	44	20

	匿名掲示板		企業のウェブサイト・広報誌		国や政府のウェブサイト・広報誌		家族や友人、知人など	
	信用・計	非信用・計	信用・計	非信用・計	信用・計	非信用・計	信用・計	非信用・計
全体	17	36	62	5	64	9	68	2
性年代								
男性10-20代	21	43	69	12	72	7	69	6
男性30代	24	34	62	5	63	11	54	2
男性40代	11	38	59	0	59	16	77	0
男性50代	13	25	62	5	65	4	60	2
男性60代	38	31	55	11	69	18	42	9
女性10-20代	17	50	66	7	73	10	74	3
女性30代	24	21	59	8	58	3	76	3
女性40代	11	39	71	3	55	0	63	2
女性50代	0	50	57	4	57	9	76	1
女性60代	25	0	56	0	70	0	73	0
性年代2								
男性18歳	0	100	100	0	100	0	74	0
男性19歳	50	50	66	0	76	0	79	0
男性20歳	39	49	53	7	78	11	67	4
女性18歳	0	100	100	0	73	27	77	5
女性19歳	0	100	100	0	80	20	84	0
女性20歳	0	0	32	18	100	0	68	6

信用・計（「とても信用する」+「まあ信用する」） 非信用・計（「あまり信用しない」+「まったく信用しない」）

分析

- 普段の情報収集源は、「テレビ」「ポータルサイト、ニュースアプリ」「SNS」が上位。また、原発利用反対層は「テレビ」と「新聞」での情報収集率が高い。
- 各情報源の信用度は「新聞」（74%）が最も高く、「家族や友人、知人など」（68%）が続く。「SNS」と「匿名掲示板」を除く他の情報源は60%前後の信用度である。
- 性年代別では、「雑誌・書籍」の信用度は男女ともに10-30代で高く、40代以降は低い傾向にある。また、「SNS」はほとんどの年代で信用度が低い、19、20歳女性は信用度が特になっている。

結果の総括

青字は分析者の私見を交えております。参考としてご覧ください。

現状の世の中の関心・行動

- 各種の社会問題の中で、原子力関連のテーマに対する関心は前回調査同様に2割弱で、3か年でみると減少傾向にある。
- 最も関心を集めているのは「年金・社会保障」。新型コロナウイルスの影響を受け、前回調査同様に「感染症の蔓延」も上位。
- 原子力に関する行動について、「特に何もしていない」が7割となっている。また、学生では「インターネット」からの情報収集が他層より高い。

原子力発電の利用について

- 原子力発電の利用に対する賛否は、これまで反対の割合の方が多かったが、今回調査では賛成が反対を上回った。
性年代別の傾向では、過去調査同様、男性で賛成の意見が多い。ただし、女性若年は中立が半数となっており、賛否よりも多い。
- 賛否の背景にある考えも過去調査同様、全体的にポジティブ面よりもネガティブ面への意見が多い。また、賛成の人はポジティブ面への意見が強く示されているが、ネガティブ面もスコア水準が高い。

原子力発電所の再稼働について

- 原発の再稼働に対する賛否は、前回調査同様に反対が賛成を上回っている。
- 賛成理由は「再生可能エネルギーで代替できない」の他、「ピーク時の電気が足りなくなる」「ガス・石炭・石油価格が不安定」といったエネルギー不足に備える理由が主。反対理由は、「廃棄物」「安全性」「自然災害への対策」が問題と考えられている。

情報の認知・関心について

- 「放射線」に関する情報について、「医療分野での使用方法」や「日常生活の中でも微量の自然放射線を受けている」といったことは約半数に認知されている。認知度が低い、知りたいと思われる情報は、「100～200mSvの被ばくでの発がんリスク増加の程度」といった内容。
- 「放射性物質」に関する情報について、認知度が低い、知りたいと思われる情報は、「放射性物質のトリチウムは基準値以下に薄めれば動物や植物への影響はない」といった内容。
- 「市場流通している福島県産の農林水産物は放射性物質の基準を下回っている」「福島県産の米は検査が行われており、2015年以降すべての米が基準値以下」といった、福島県産品の安全性については、認知率が微増している。

30年後の電力エネルギー源に対する考え

- 30年後の電力エネルギー源だと思うものは「再生可能エネルギー」が突出。「原子力」は「天然ガス」と同程度で、「石炭」より高い。
- 原子力より再生可能エネルギーに期待が高い役割は、「地球温暖化防止」「大気汚染防止」「石油・天然ガス・石炭の輸入に頼らない」。

子有女性の傾向について

- 全体を通して、子有女性（10歳未満）は女性30代、子有女性（11歳以上）は女性40代の回答と同様の傾向にあるものが多い。
- しかし、原発再稼働の賛否理由などで、同様の傾向ではないものも見受けられた。
- 子有女性（11歳以上）には女性40代の他に一部女性50,60代も含まれているため、女性40代と比較した際に傾向が異なることもある。
しかし、基本的には一般女性と大差はないと考えられる。



調査結果の詳細

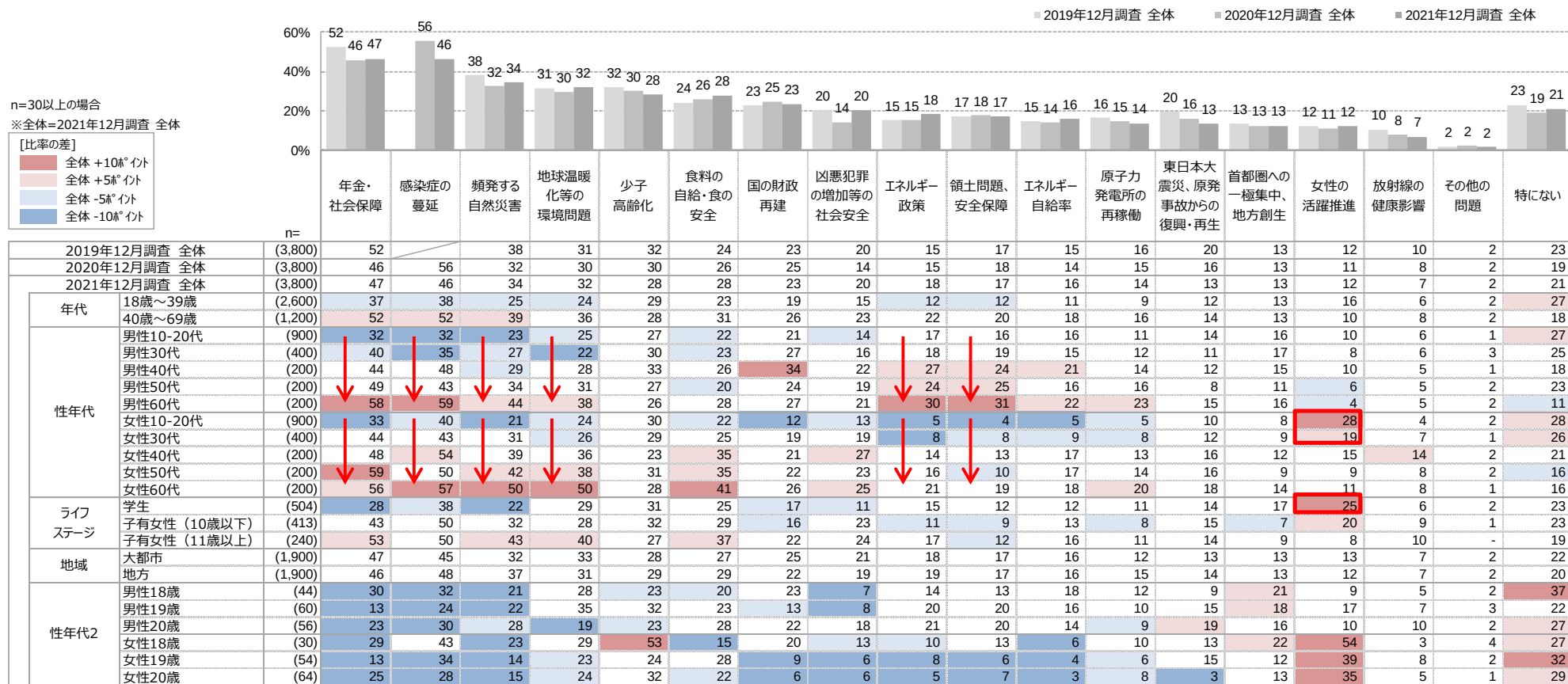
関心のある社会問題

- 社会問題への興味関心は、「年金・社会保障」がトップ、「感染症の蔓延」が次ぐ。他、「頻発する自然災害」「地球温暖化等の環境問題」が上位。
- ・ 多くの社会問題は、若年層の関心が薄い傾向。ただし、「女性の活躍推進」については、女性若年層の興味関心度が高い。
- ・ 男女とも年代が高くなるほど、「年金・社会保障」「感染症の蔓延」「自然災害」「環境問題」「エネルギー政策」「領土問題、安全保障」などに対する関心も高まる傾向。

Q4 あなたが現在、関心を持っているものをすべてお選びください。

MA

※全体ベース



原子力について現在行っていること

- 原子力について現在行っている行動として「特に何もしていない」が約7割を占める。
 - ・ 性年代別では、男性10-20・30代で「情報をインターネットで調べる」人の割合が高めとなっており、その傾向は学生で顕著。また、「ニュース・新聞記事を見る」人は男性40・60代でスコア高め。

Q5 原子力発電や医療・産業における放射線利用に関して、あなたがしていることをすべてお選びください。 MA

※全体ベース



原子力発電利用への賛否

- 原子力発電利用に関して前回と比較すると、賛成は30%と微増、反対は29%と微減。どちらともえないは41%と同等。
- ・ 性年代別では、女性よりも男性で賛成の比率が上回る。また、男性50代以下では賛成が反対を上回っている。男女ともに年代が高くなるほど、反対比率も高まる。
- ・ ライフステージ別でみると、賛成の比率は学生で37%と高い。一方、子有女性では2割未満にとどまる。

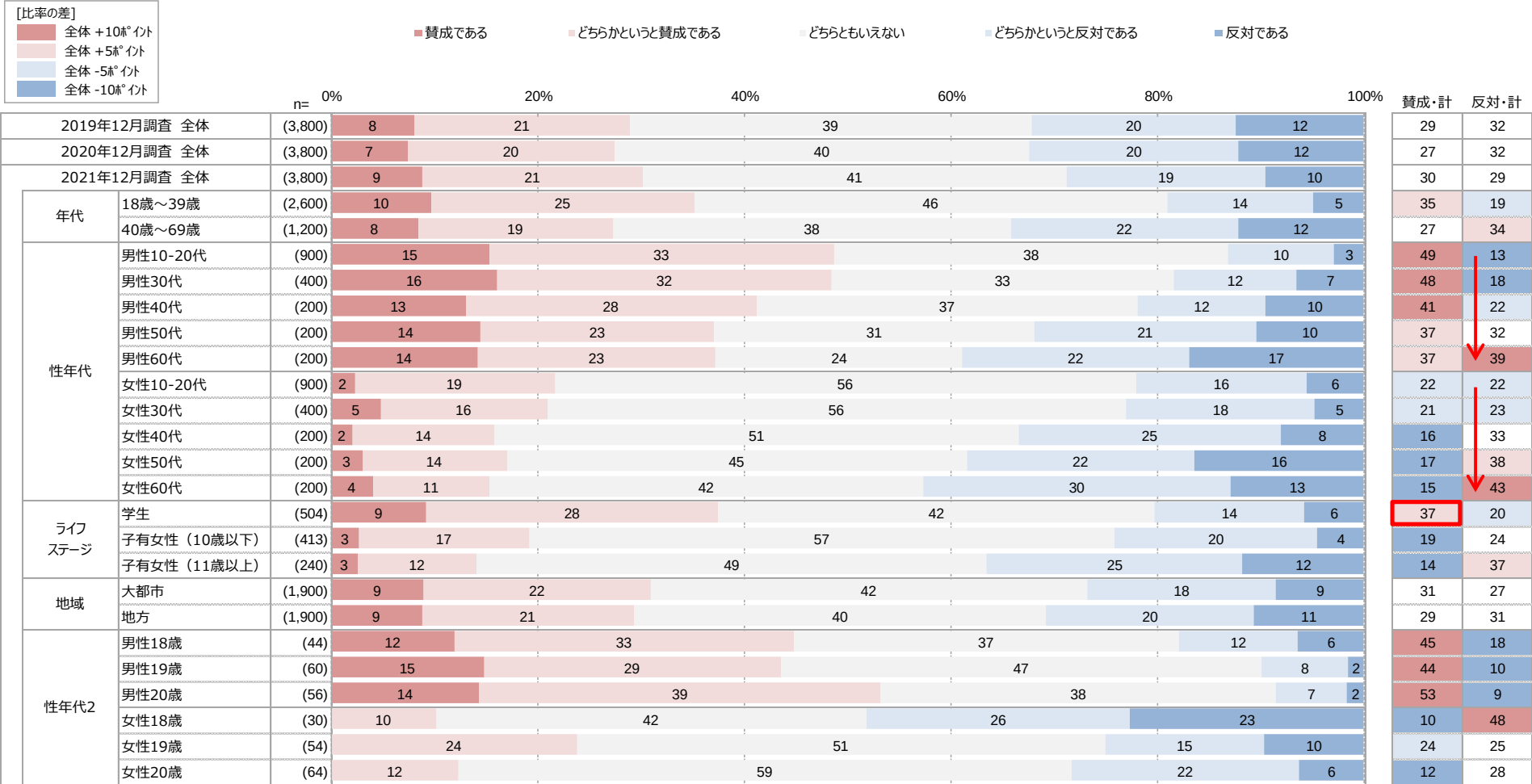
Q6 あなたは、日本が原子力発電を利用することに対して、どのようなお考えですか。お考えにあてはまるものをお選びください。

SA

n=30以上の場合

※全体ベース

※全体=2021年12月調査 全体



※賛成・計（「賛成である」+「どちらかという賛成である」）

※反対・計（「どちらかという反対である」+「反対である」）

原子力発電所 再稼働への賛否

- 原子力発電所の再稼働については、賛成30%、反対32%、どちらともいえない38%。前回から賛成が増加し、反対が減少。
- ・ 女性よりも男性で賛成の比率が上回る。また、男性10-20代~40代では賛成が反対を大きく上回っている。一方、女性は年代に関わらず反対意見が強い。男女とも年代が高くなるほど反対比率が高まる。ライフステージ別では、子有女性で反対という人が多く、子供の年齢が高いほど反対意見も強まっている。

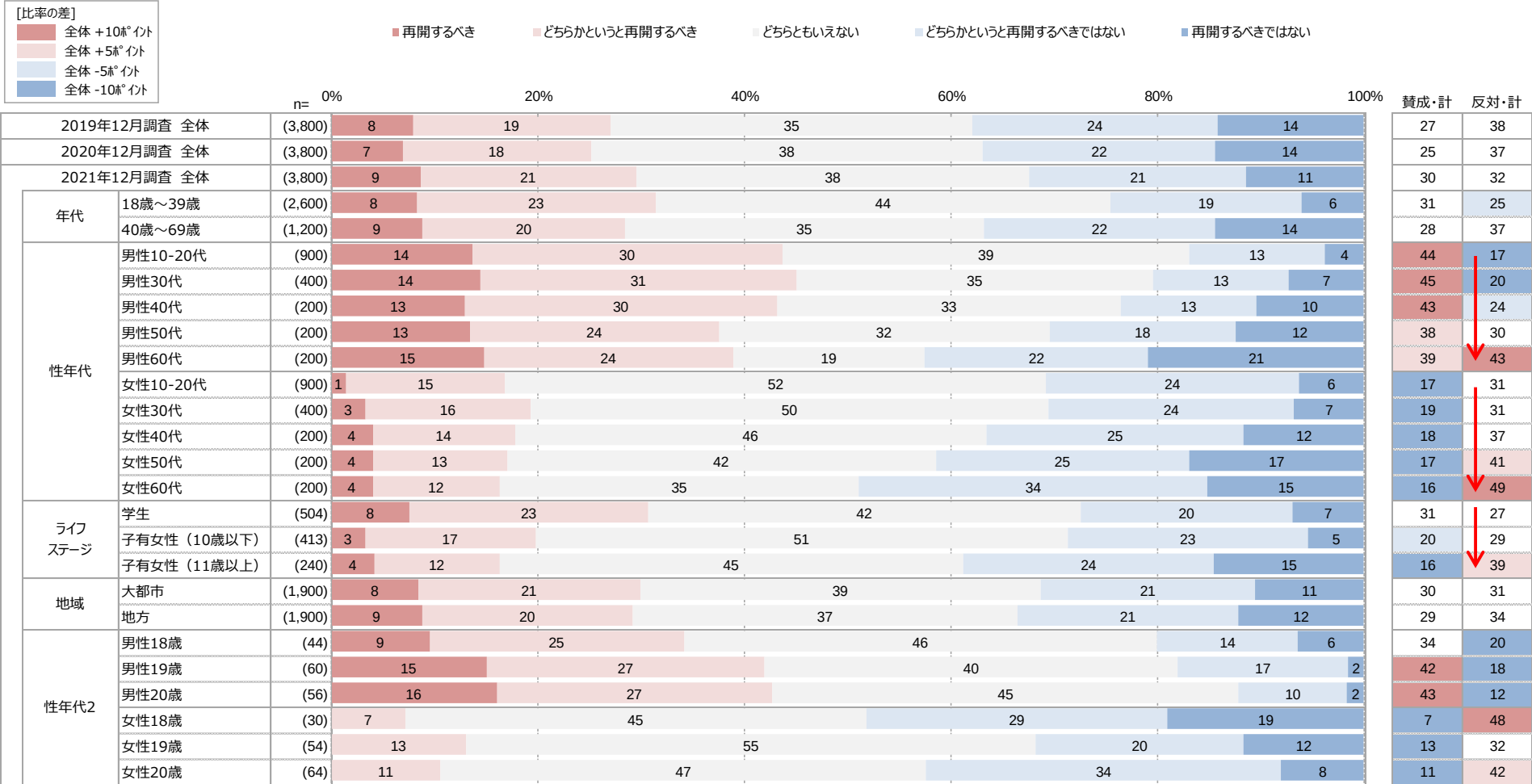
Q7 あなたは、現在停止している原子力発電所の運転再開（再稼働）について、どのように思いますか。お考えにあてはまるものをお選びください。

SA

n=30以上の場合

※全体ベース

※全体=2021年12月調査 全体



※賛成・計（「再開するべき」+「どちらかという再開するべき」）

※反対・計（「どちらかという再開するべきではない」+「再開するべきではない」）

【資料提示】原子力発電所 新規建設への賛否

- 原子力発電所の新規建設については、賛成23%、反対39%。反対比率は調査ごとに漸減傾向。
- ・ 属性別でみると、女性よりも男性で賛成の比率が上回る。なお、男性40代以下で賛成が反対を上回るが、その他の層では反対が賛成を上回っている。
- ・ 男女ともに年代が高くなるほど、反対比率が高まる。

Q8 上記の説明の通り、原子力発電の規模を一定に維持する場合、将来新しい原子力発電所の建設が必要になります。あなたは、新しく原子力発電所を建設することについて、どのように思いますか。

SA

n=30以上の場合

※全体ベース

※全体=2021年12月調査 全体

[比率の差]

■ 全体 +10%ポイント
■ 全体 +5%ポイント
■ 全体 -5%ポイント
■ 全体 -10%ポイント

■ 賛成である

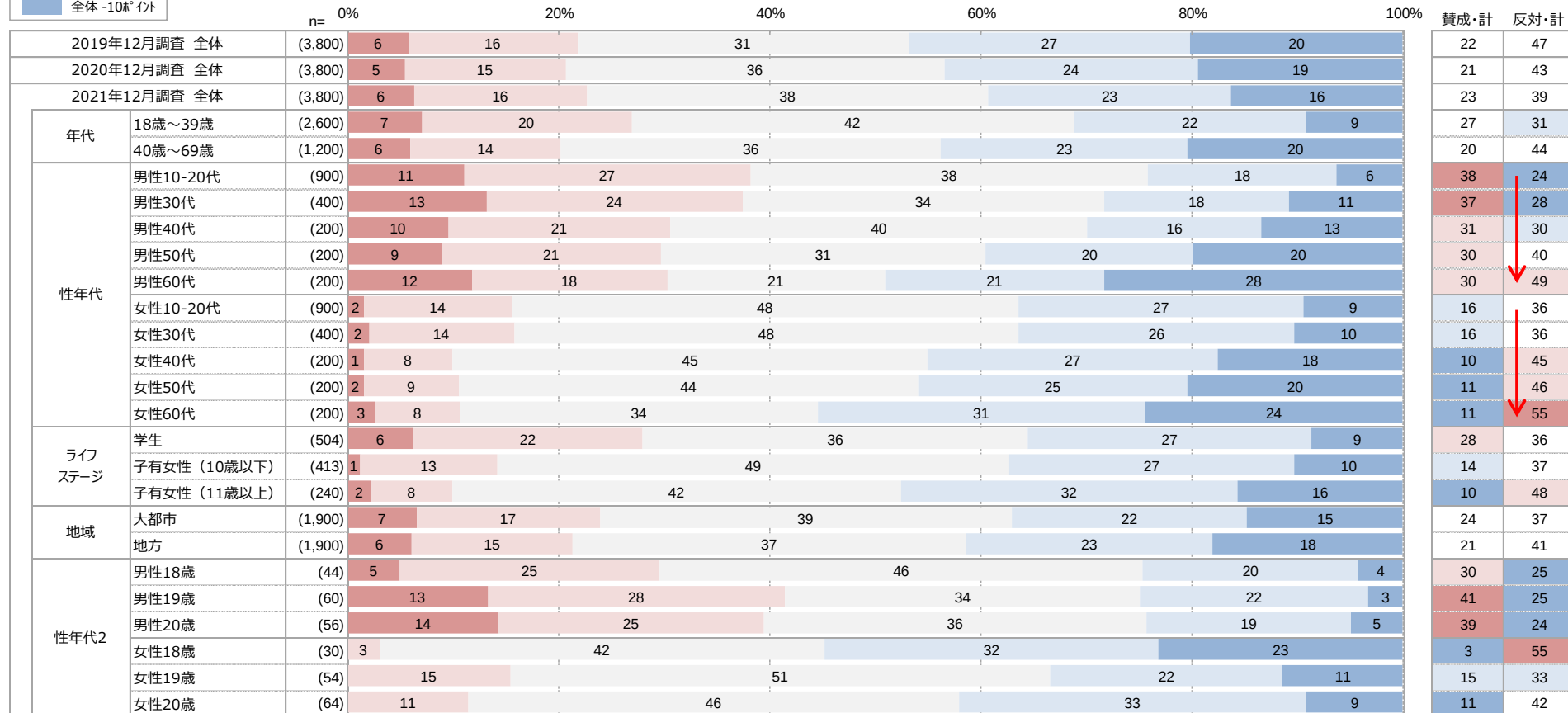
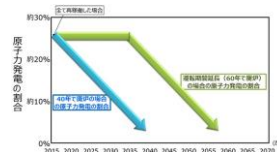
■ どちらかという賛成である

■ どちらともいえない

■ どちらかという反対である

■ 反対である

原子力発電所を建設する賛成(賛成)は40歳以下で反対(反対)は60歳以上、2040年(平成30年)には、平均的な原子力発電所建設の賛成(賛成)は反対(反対)を上回ります。今後、原子力発電所建設の賛成(賛成)は、必ずしも賛成(賛成)に変わります。



※賛成・計 (「賛成である」+「どちらかという賛成である」)

※反対・計 (「どちらかという反対である」+「反対である」)

【資料提示】原子力発電所 新規建設への賛否（利用・再稼働の賛否別）

■ 原子力発電所の新規建設については、賛成が23%、反対が39%。反対比率は調査ごとに漸減傾向。

- ・ 原子力発電利用や再稼働に賛成の人でも、約1割が新規建設には反対、2割半ばの人がどちらともいえないという考えを持っている。
- ・ 一方、原子力発電利用や再稼働に反対という人の大半は、新規建設にも反対している。
- ・ 原子力発電利用や再稼働にどちらともいえないという人は、新規建設に対してもどちらともいえないという意見が多いが、賛成よりは反対の方が多い。

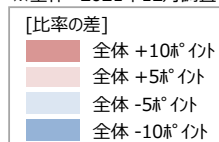
Q8 上記の説明の通り、原子力発電の規模を一定に維持する場合、将来新しい原子力発電所の建設が必要になります。あなたは、新しく原子力発電所を建設することについて、どのように思いますか。

SA

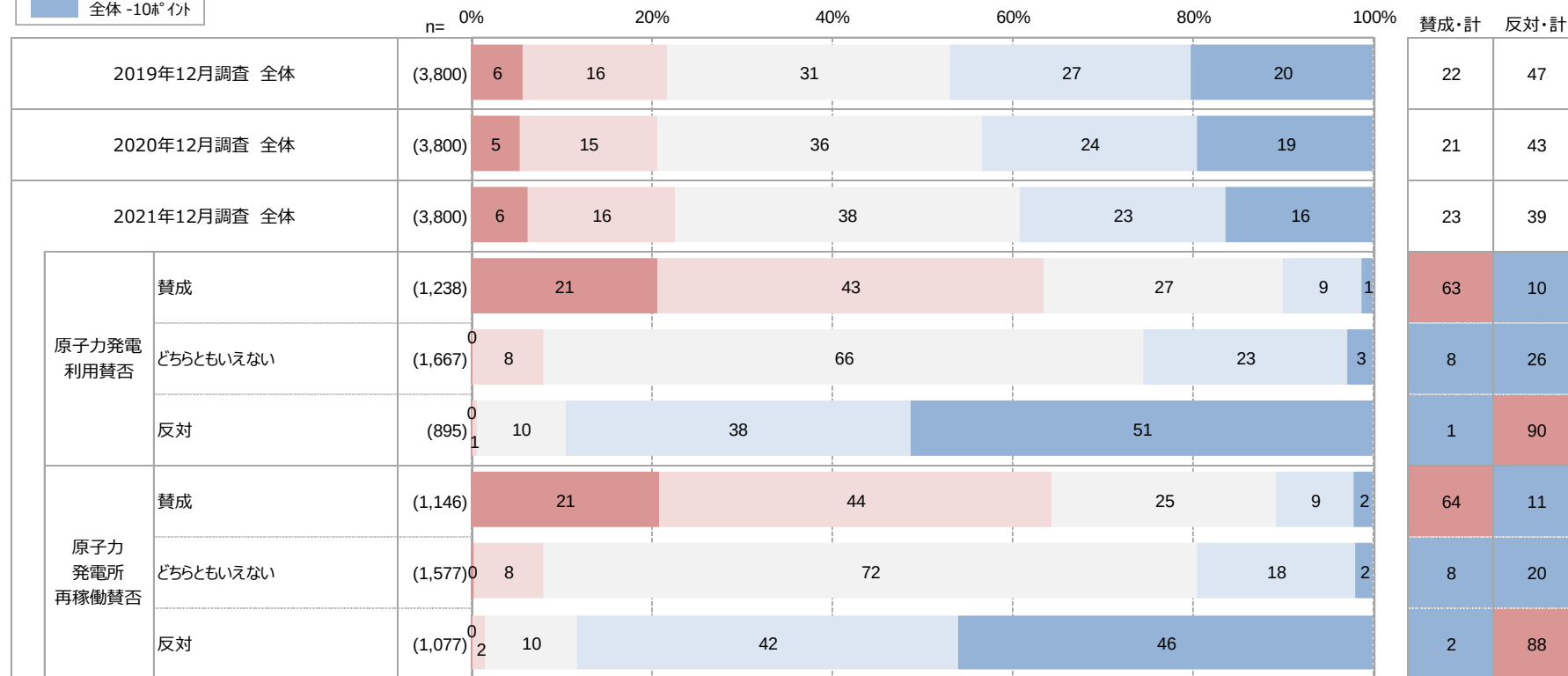
※全体ベース

n=30以上の場合

※全体=2021年12月調査 全体



■ 賛成である ■ どちらかという賛成である ■ どちらともいえない ■ どちらかという反対である ■ 反対である



※賛成・計（「賛成である」+「どちらかという賛成である」）

※反対・計（「どちらかという反対である」+「反対である」）

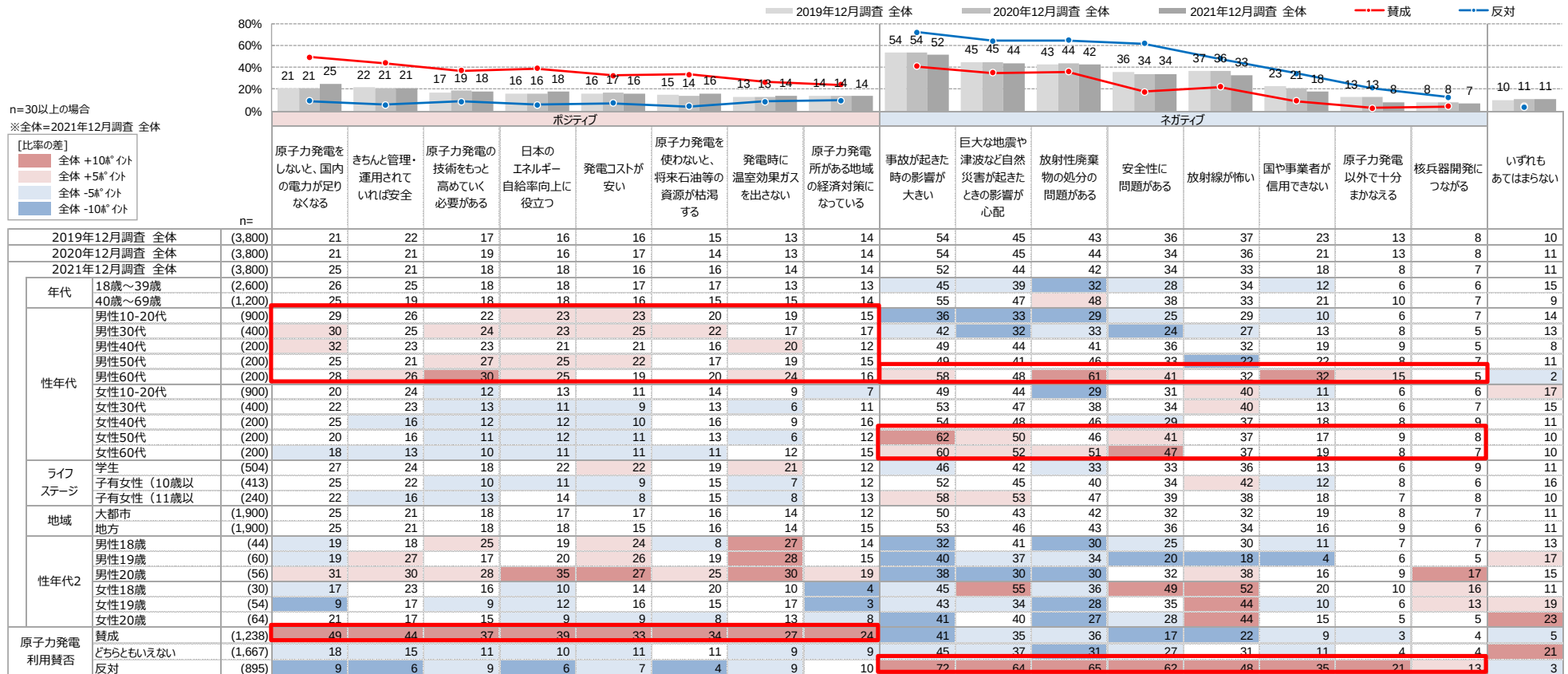
原子力発電の利用についての考え

- 過去調査と同様、原発にネガティブな意見を持つ人が多い。特に「事故発生時の影響」「自然災害時の影響」「放射性廃棄物の処分」が上位要素。
- ・ 性年代別では、男性は女性よりもポジティブスコアが高め。ただし、女性50・60代や男性60代は、他の年代よりもネガティブな意見が強い。
- ・ また、男性18歳はポジティブな意見が比較的多い。
- ・ 原子力発電利用に賛成の人はポジティブな意見、反対の人はネガティブな意見が強い。

Q9 原子力発電の利用について、あなたの普段からのお考えにあてはまると思うものをすべてお選びください。

MA

※全体ベース



※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

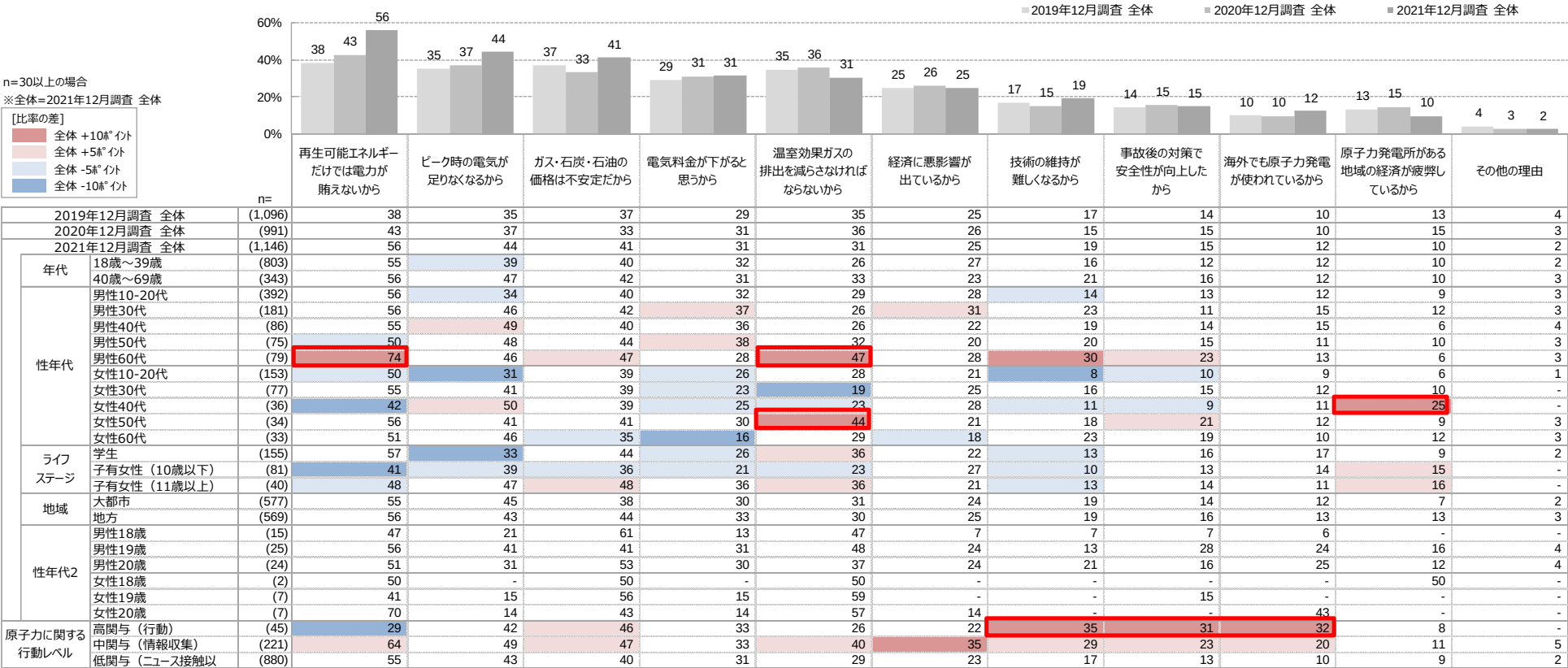
原子力発電所 再稼働への賛成理由

- 主な賛成理由は「再生可能エネルギーだけでは賄えない」「ピーク時の電気が足りなくなる」「ガス・石炭・石油の価格は不安定」。
- ・ 男性60代で「再生可能エネルギーだけでは賄えない」「技術の維持が難しくなる」が、男性60代と女性50代で「温室効果ガスの排出削減」が、女性40代で「発電所がある地域の経済が疲弊」が高い。
- ・ 行動レベル別では、高関与層で「技術の維持が難しくなる」「事故後の対策で安全性向上」「海外でも原発が使われている」が高く、全体を大きく上回る。

Q10 再稼働すべきとお考えの理由として、あてはまるものをすべてお選びください。

MA

※原子力発電所の運転再開に賛成の方ベース



※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

原子力発電所 再稼働への反対理由

- 反対理由では「廃棄物の問題」「絶対の安全はない」「自然災害への対策が不十分」が主流。
- ・ 性年代別では、男性40代以上で「事業者や国が信用できない」のスコアが高い。また、男女60代は他年代に比べて全般的にスコアが高い。他、男性30代の「電気は十分足りて」も高さが目立つ。

Q11 再稼働すべきではないとお考えの理由として、あてはまるものをすべてお選びください。 MA

※原子力発電所の運転再開に反対の方ベース



※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

原子力発電・放射線の医療利用・産業利用に対する不安

■「原発」に対する不安が7割で、最大の不安要素。以下、「放射線産業利用」への不安が5割強、「放射線医療利用」への不安が4割弱。

- ・性年代別では、女性60代で「原発」「放射線医療利用」「放射線産業利用」への不安が強く、女性40代が準じる。
- ・ライフステージ別では、学生よりも子有女性、子有女性の中でも子供の年齢が高い層で不安度が高い。
- ・行動レベル別の関与が高い層ほど不安も高まる。

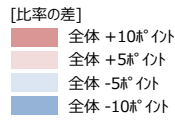
Q12 あなたは原子力発電や、医療・産業における放射線利用について、不安を感じていますか。それぞれお気持ちにもっともあてはまるものをお選びください。

SA

n=30以上の場合

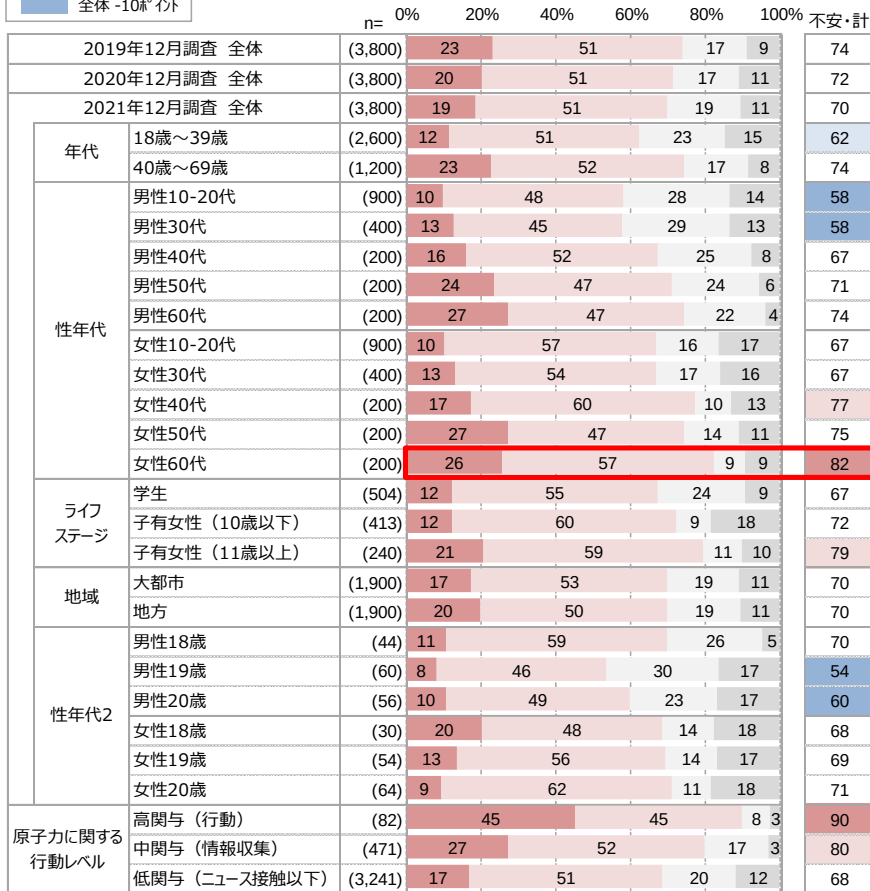
※全体ベース

※全体=2021年12月調査 全体



原子力発電

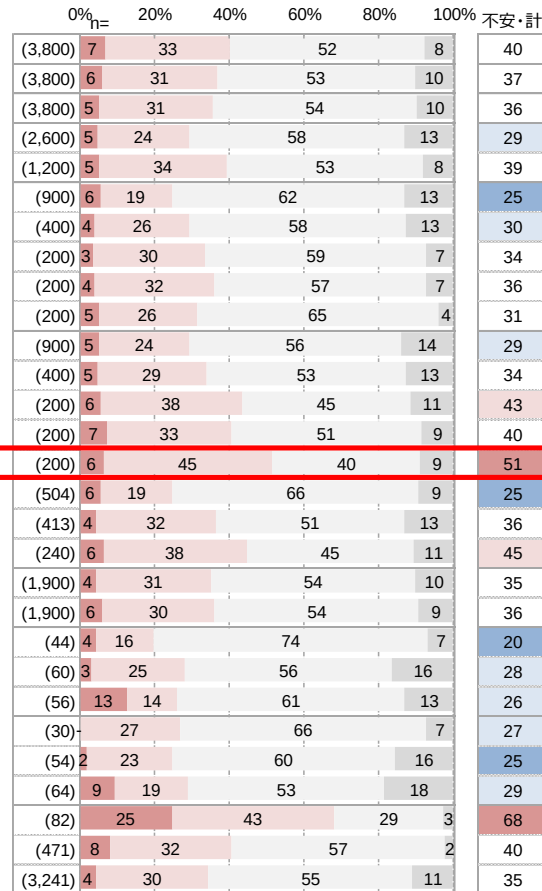
■ 強い不安がある



放射線医療利用

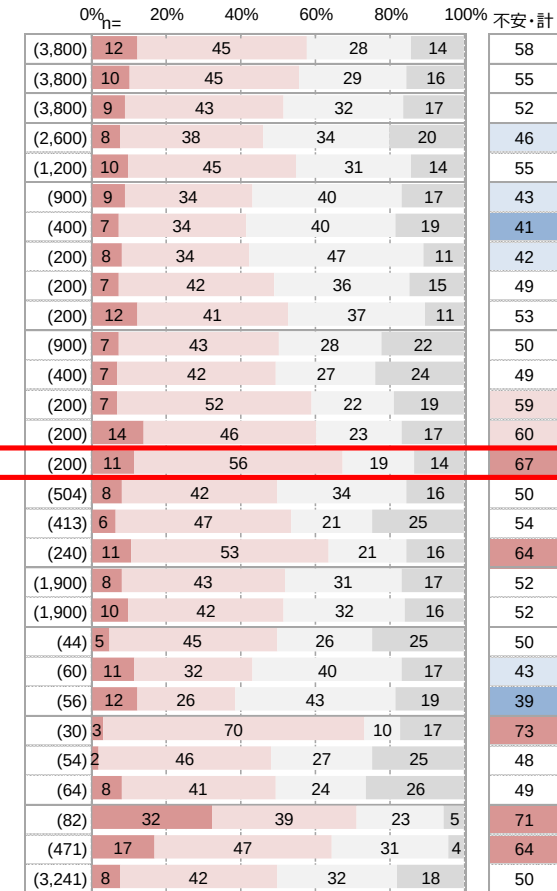
■ 漠然とした不安がある

■ 特に不安はない



放射線産業利用

■ わからない



※不安・計（「強い不安がある」+「漠然とした不安がある」）

原子力発電の利用、発電所再稼働への賛否

- 原子力発電に対する不安が強いほど、原子力発電の利用や発電所の再稼働に対して、反対意見が強くなっている。
- ・『原子力発電の利用』『発電所の再稼働』に対する反対意見は、前回調査から横ばい。

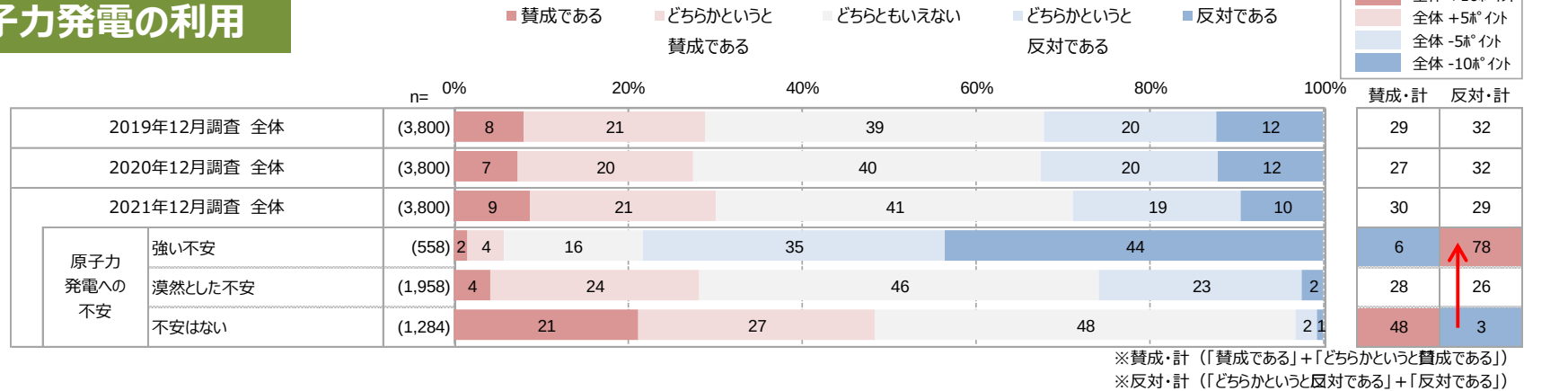
Q6 あなたは、日本が原子力発電を利用することに対して、どのようなお考えですか。お考えにあてはまるものをお選びください。

Q7 あなたは、現在停止している原子力発電所の運転再開（再稼働）について、どのように思いますか。お考えにあてはまるものをお選びください。

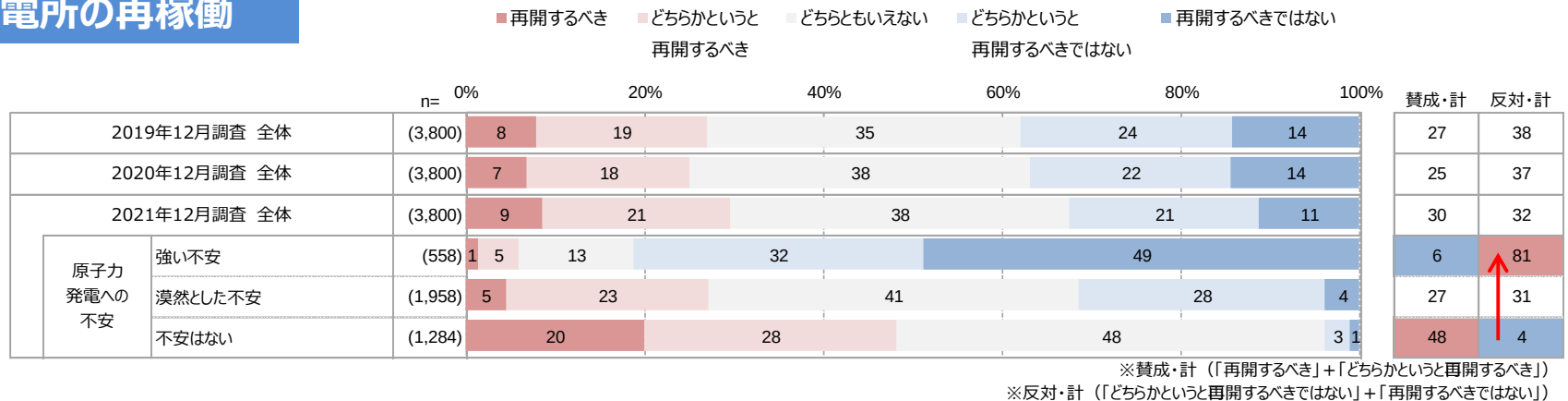
SA

※全体ベース

原子力発電の利用



発電所の再稼働



「放射線」に関する情報の認知

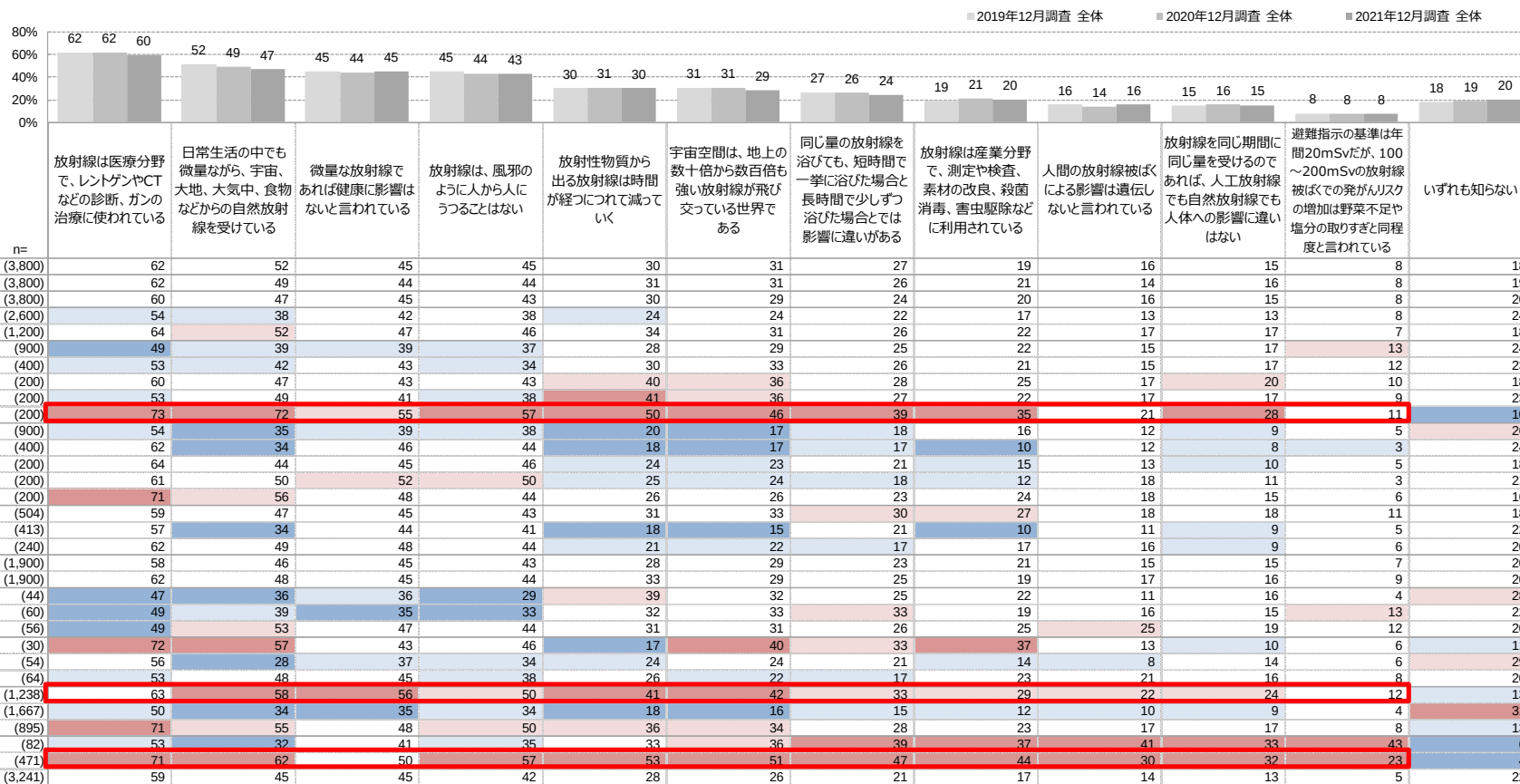
■『放射線』に関する認知は、「医療分野で診断・治療に使われている」「日常生活の中でも自然放射線を受けている」が上位。

- ・ 性年代別では、男性60代で各スコアが高い。
- ・ 原発利用賛否別では、反対層よりも賛成層で全般的に認知が上回る。また、反対層でも「医療分野で診断、治療に使われている」などの認知が高い。
- ・ 行動レベル別では、中関与層で各スコアが高い。

Q13 「放射線」に関する以下の内容のうち、あなたをご存知のものをすべてお選びください。

MA

※全体ベース



※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

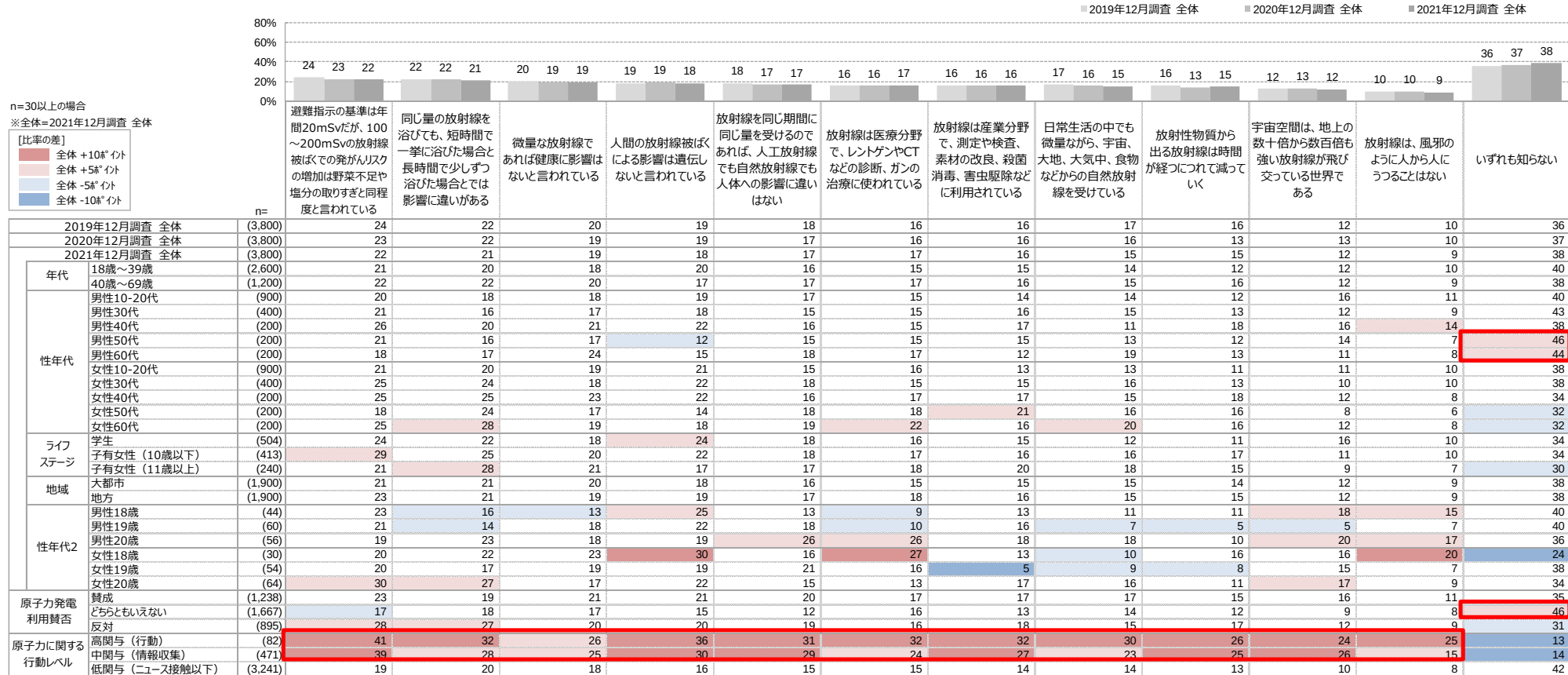
「放射線」に関する知りたい情報

- 『放射線』について知りたい情報は、「発がんリスクの増加は野菜不足等と同程度」「短時間と長時間で浴びた場合では影響に違いがある」が上位。
- ・男性50代以上や、原子力発電所利用賛否「どちらでもない」層で、「いずれも知らない」がやや高く、関心がない層が一定数存在している。
- ・行動レベル別では、中・高関与層で各スコアが高い。

Q14 以下のうち、あなたが根拠より詳しい情報を知りたいと思うものをすべてお選びください。

MA

※全体ベース



※「2021年12月調査 全体」のスコアを降順ソート

「放射性物質」に関する情報の認知

- 『放射性物質』に関する認知は、「福島県産の農林水産物は放射性物質の基準を下回る」「福島県産品の売上が落ちる状況が続いている」が上位。
- ・性年代別では、全般的に女性よりも男性で認知が高く、特に男性60代目立つ。一方、女性30代以下は認知が低く、性年代による認知の差が見られる。
- ・行動レベル別では、中・高関与層で各スコアが高く、認知が多岐に渡る。

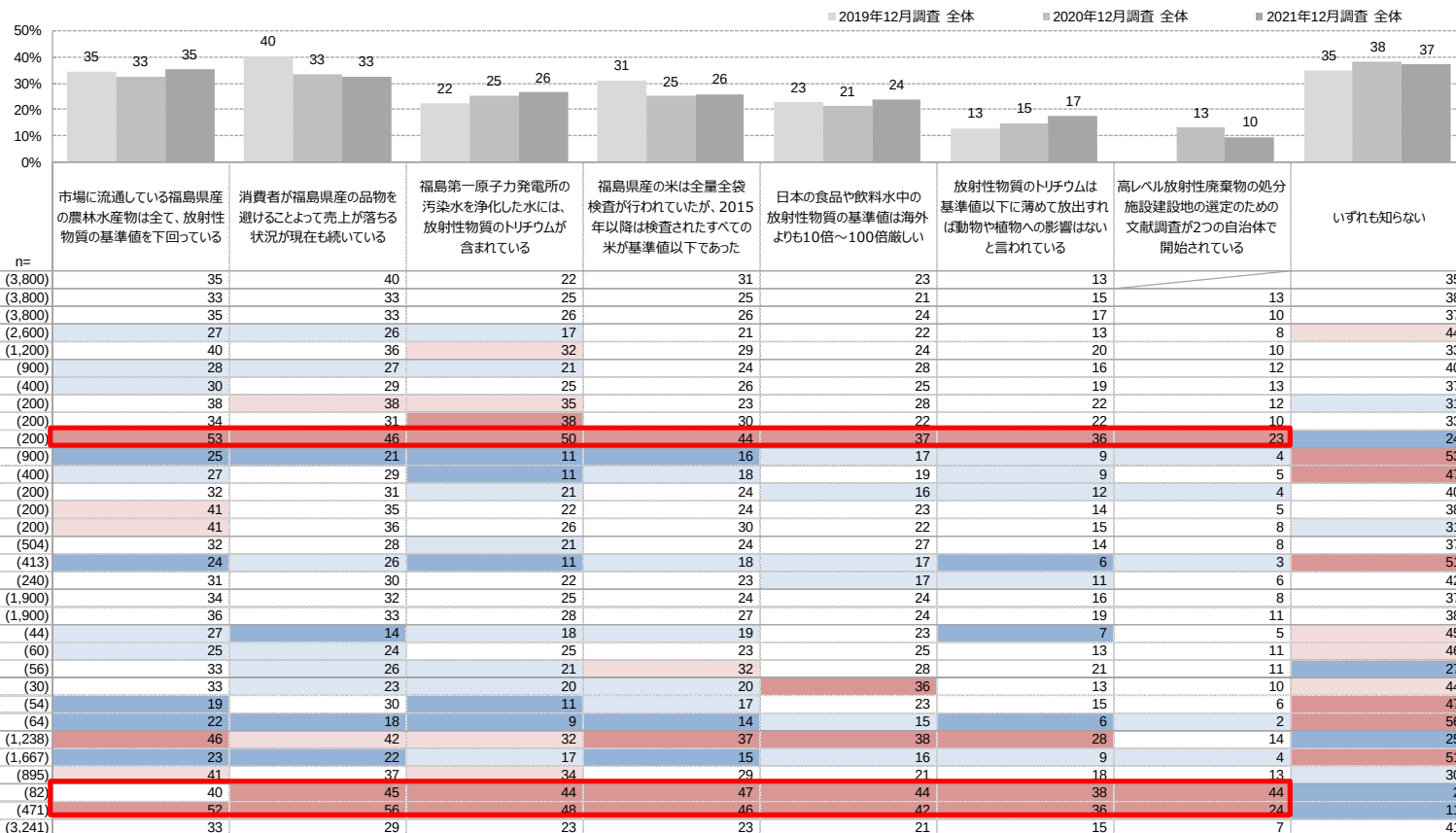
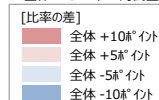
Q15 「放射性物質」に関する以下の内容のうち、あなたがご存知のものをすべてお選びください。

MA

※全体ベース

n=30以上の場合

※全体=2021年12月調査 全体



※斜線の項目について、2019年12月調査以前では非聴取

※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

「放射性物質」に関する知りたい情報

■『放射性物質』について知りたい情報は、「トリチウムは薄めて放出すれば影響はない」「日本の放射性物質の基準値は海外よりも厳しい」が上位。

- ・性年代別でみると、「トリチウムは薄めて放出すれば影響はない」は高年代層ほどスコアも高まる。
- ・ライフステージ別の子有女性（10歳以下）では「日本の放射性物質の基準値は海外よりも厳しい」のスコアがやや高い。
- ・行動レベル別では、中・高関与層で一般的にスコアが高い。

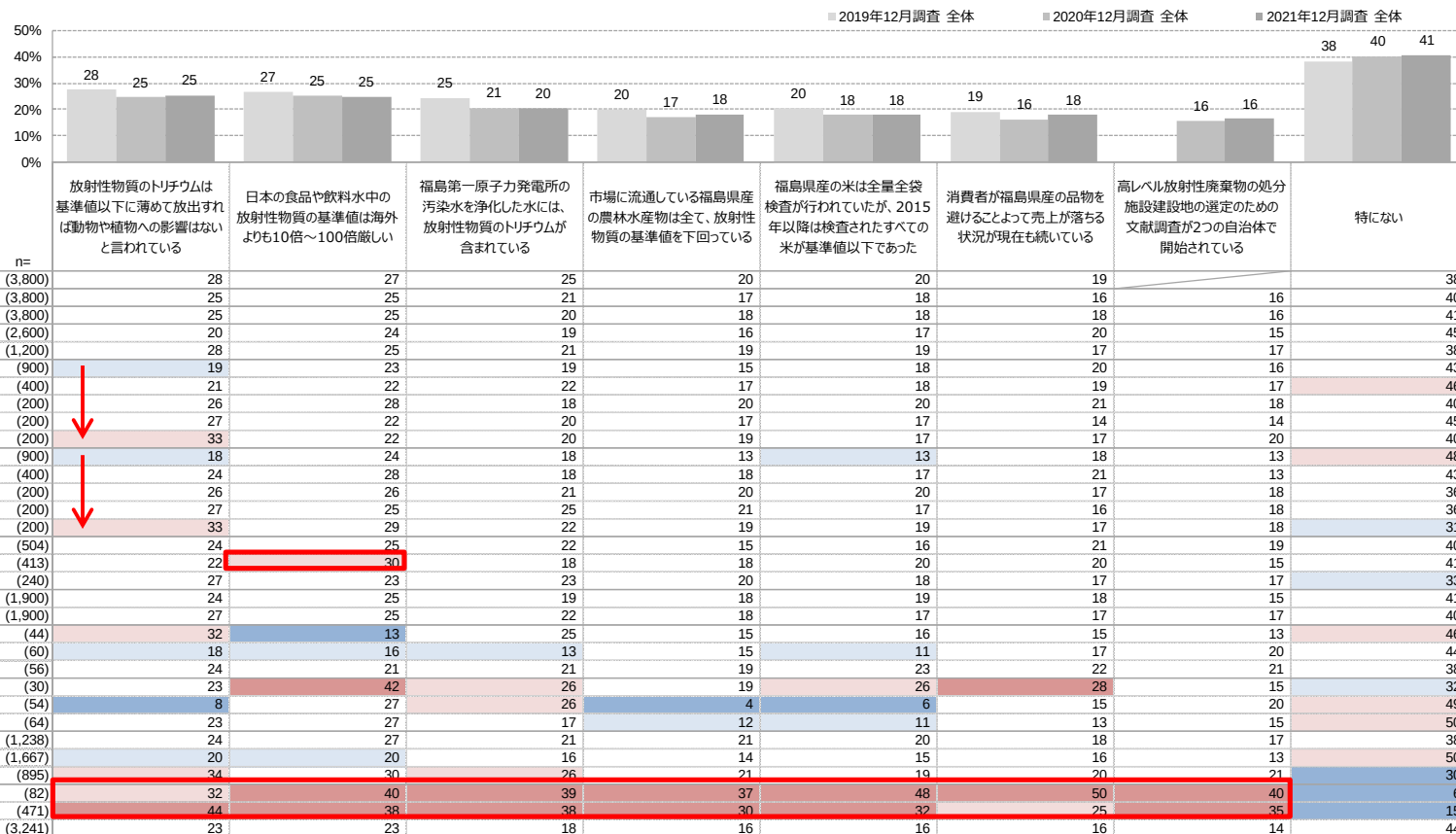
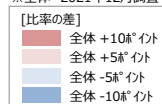
Q16 以下のうち、あなたが根拠より詳しい情報を知りたいと思うものをすべてお選びください。

MA

※全体ベース

n=30以上の場合

※全体=2021年12月調査 全体



※斜線の項目について、2019年12月調査以前では非聴取

※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

「エネルギーや地球温暖化」に関する情報の認知

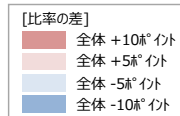
- エネルギーや温暖化に関する情報の認知に関して、『温室効果ガスは温暖化の要因』が最も高く8割弱を占める。
 - ・ 性年代別でみると、各項目、男性の高年代層でスコアが高まる傾向。ライフステージ別では、子有女性よりも学生で認知が上回る。
 - ・ 原子力発電利用賛否別では賛成で、行動レベル別では高関与・中関与層で各スコアが高い。

Q17 あなたは「エネルギーや地球温暖化」に関する以下のそれぞれの内容について、どの程度ご存知ですか。それぞれあてはまるものをひとつお選びください。

SA

※全体ベース

n=30以上の場合
※全体=2021年12月調査 全体



二酸化炭素などの温室効果ガスは
地球温暖化の要因となっている

■ 理解している

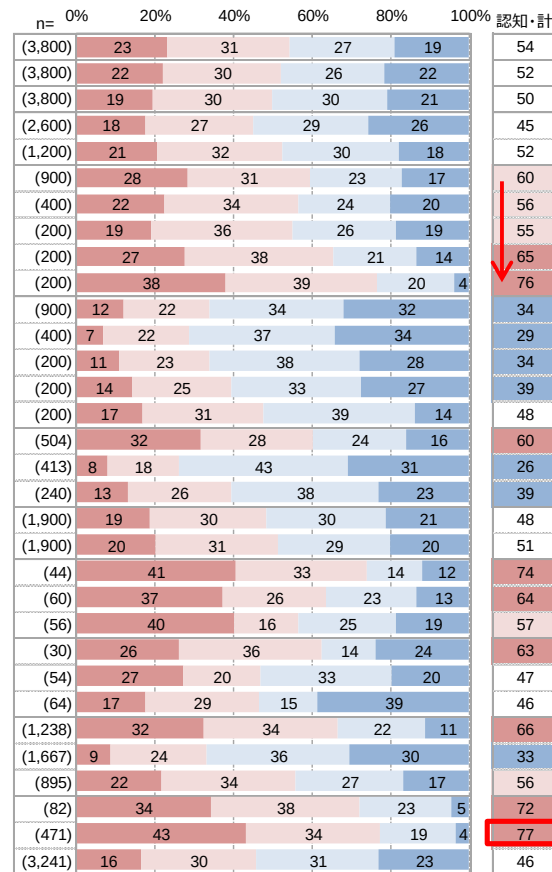
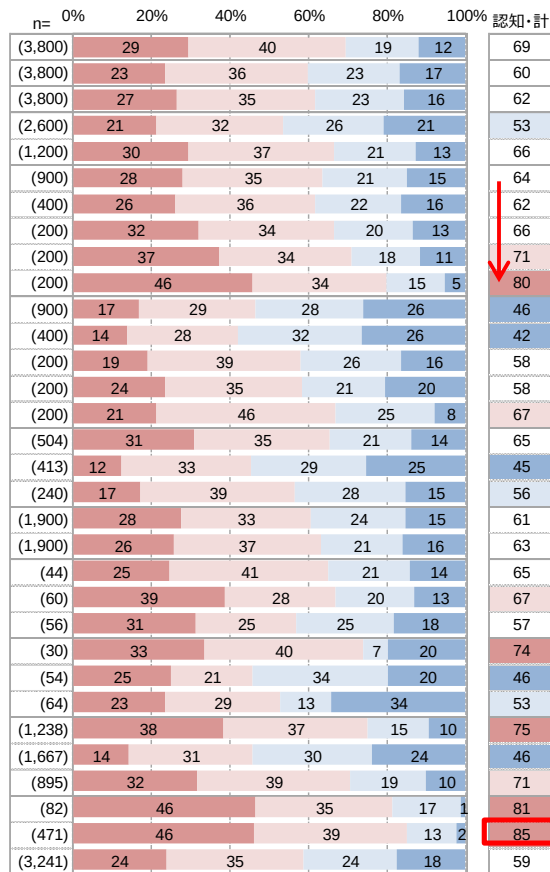
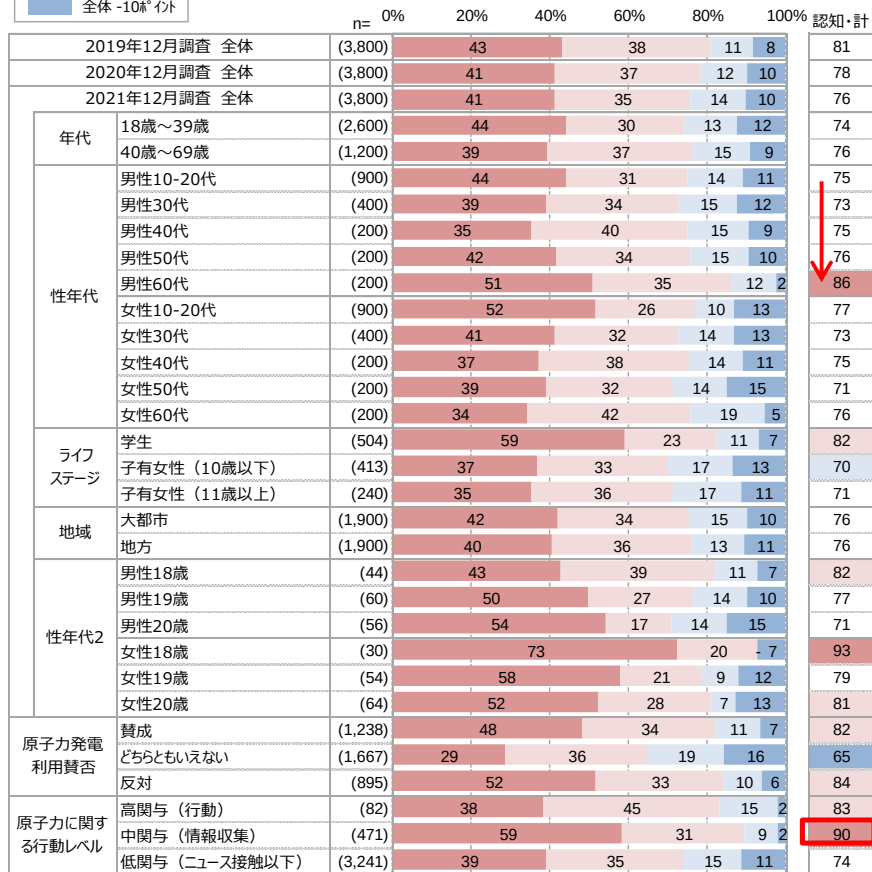
日本はエネルギー自給率が低く、国際情勢によって
エネルギー価格や調達量の影響を受けやすい

■ なんとなく知っている

■ あまり知らない

原子力発電所は発電の際に、
二酸化炭素を排出しない

■ まったく知らない



※認知・計（「理解している」+「なんとなく知っている」）

「エネルギーや地球温暖化」に関する情報の認知

Q17 あなたは「エネルギーや地球温暖化」に関する以下のそれぞれの内容について、どの程度ご存知ですか。それぞれあてはまるものをひとつお選びください。

SA

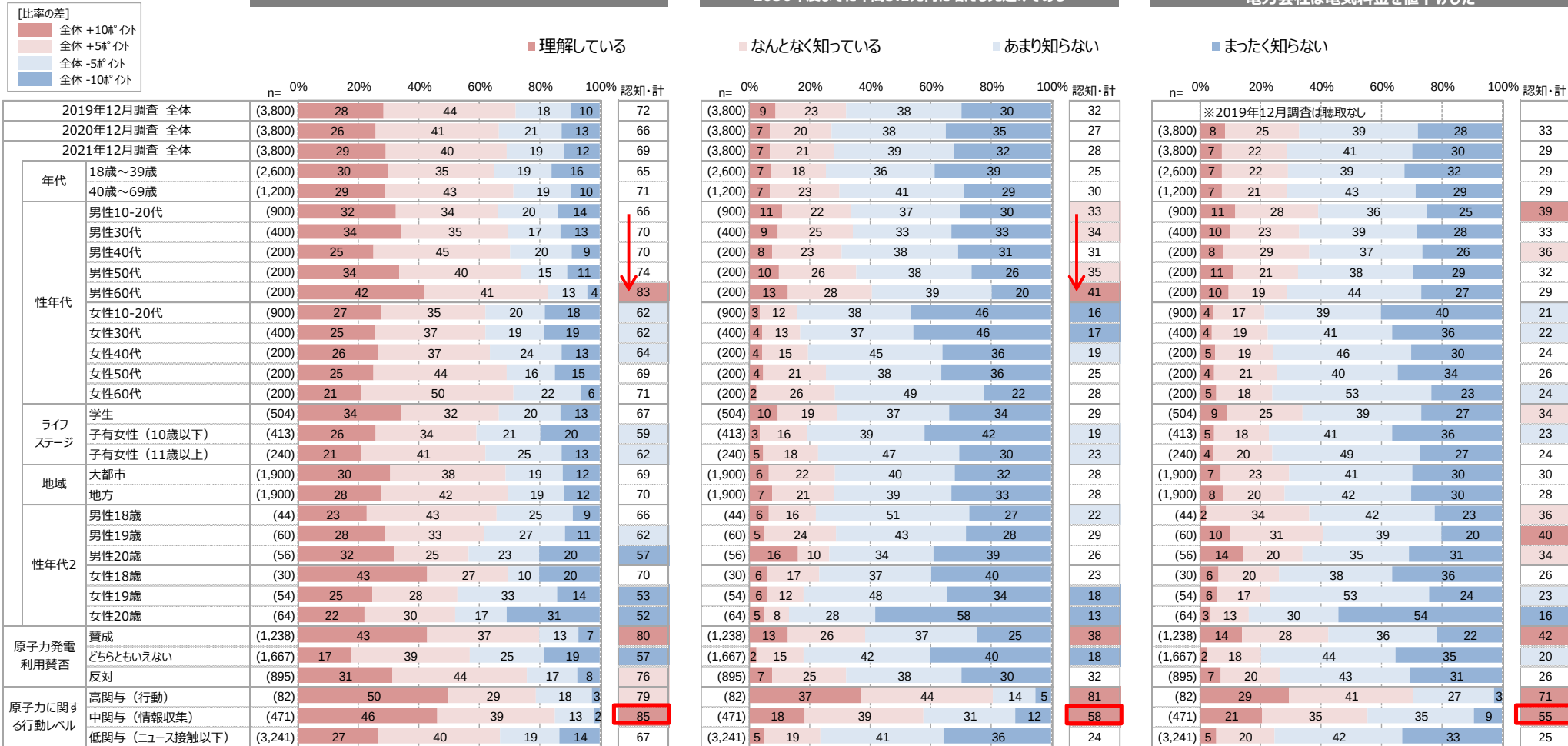
※全体ベース

n=30以上の場合
※全体=2021年12月調査 全体

電気料金が高くなると経済活動や家計に負担がかかり、
雇用や給料にも影響が及ぶ

再生可能エネルギー普及のために2020年度は年間2.4兆円（消費
税1%増に相当）が電気料金に上乗せされ、この上乗せ額は
2030年度までに年間3.1兆円に増える見込みである

2011年以降の原子力発電所の停止により電気料金は
値上げされたが、その後原子力発電所を再稼働した
電力会社は電気料金を値下げした



30年後の日本において電力のエネルギー源だと考えられるもの

■ 30年後の日本の電力エネルギー源は、「太陽光や風力などの再生可能エネルギー」と考える人が最も多い。次いで「原子力」「天然ガス」の順。

- ・ 性年代別では、女性よりも男性で「原子力」が高い。また、男性高年代層ほど「太陽光や風力などの再生可能エネルギー」が高まる傾向。
- ・ 原発利用賛否別では、賛成層で「原子力」、反対層で「太陽光や風力などの再生可能エネルギー」が高い。

Q18 あなたは、30年後の日本では、電力はどのようなエネルギーによってまかなわれていると思いますか。以下のうち、あてはまるとお考えのものをすべてお選びください。

MA

※全体ベース



※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

30年後の日本で再生可能エネルギーに期待する役割

■ 30年後の日本で再生可能エネルギーに期待する役割は、「地球温暖化防止」「大気汚染防止」が上位。

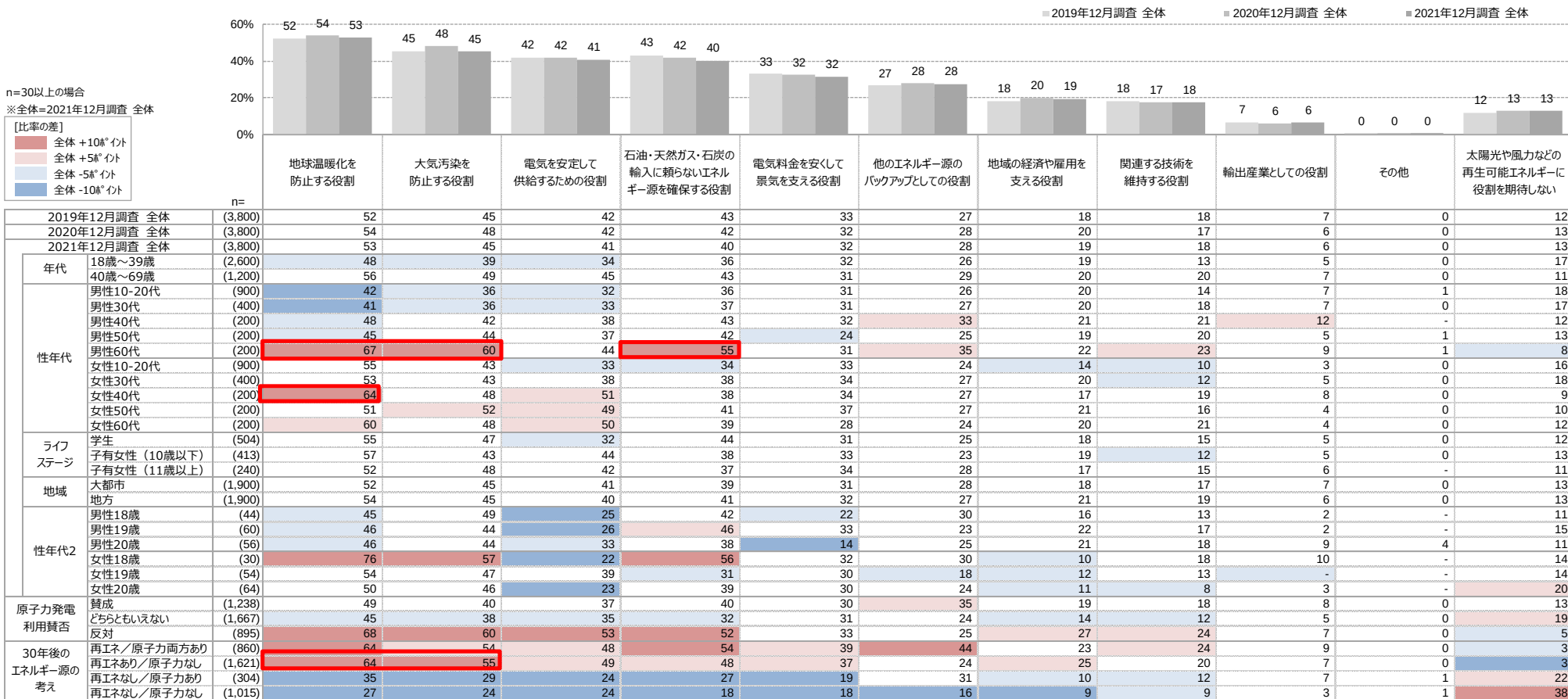
- ・ 性年代別では、男性60代・女性40代で「地球温暖化防止」、男性60代で「大気汚染防止」「輸入に頼らないエネルギー源確保」が高い。
- ・ 原発利用賛否別では、反対層で全般的にスコアが高く、特に「地球温暖化防止」「大気汚染防止」「電気安定供給」「輸入に頼らないエネルギー源確保」が目立つ。
- ・ 30年後のエネルギー源の考え別では、再エネあり／原子力なし層で「地球温暖化防止」「大気汚染防止」が高い。

Q19 あなたは、30年後の日本において、「太陽光や風力などの再生可能エネルギー」にどのような役割を期待しますか。以下のうち、あてはまるとお考えのものをすべてお選びください。

※30年後の日本において、「太陽光や風力などの再生可能エネルギー」が利用されているとして、お答え下さい。

MA

※全体ベース



※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

30年後の日本で原子力発電に期待する役割

■ 30年後の日本で原発に期待する役割は、「電気の安定供給」「電力料金を安くして景気を支える」が上位。

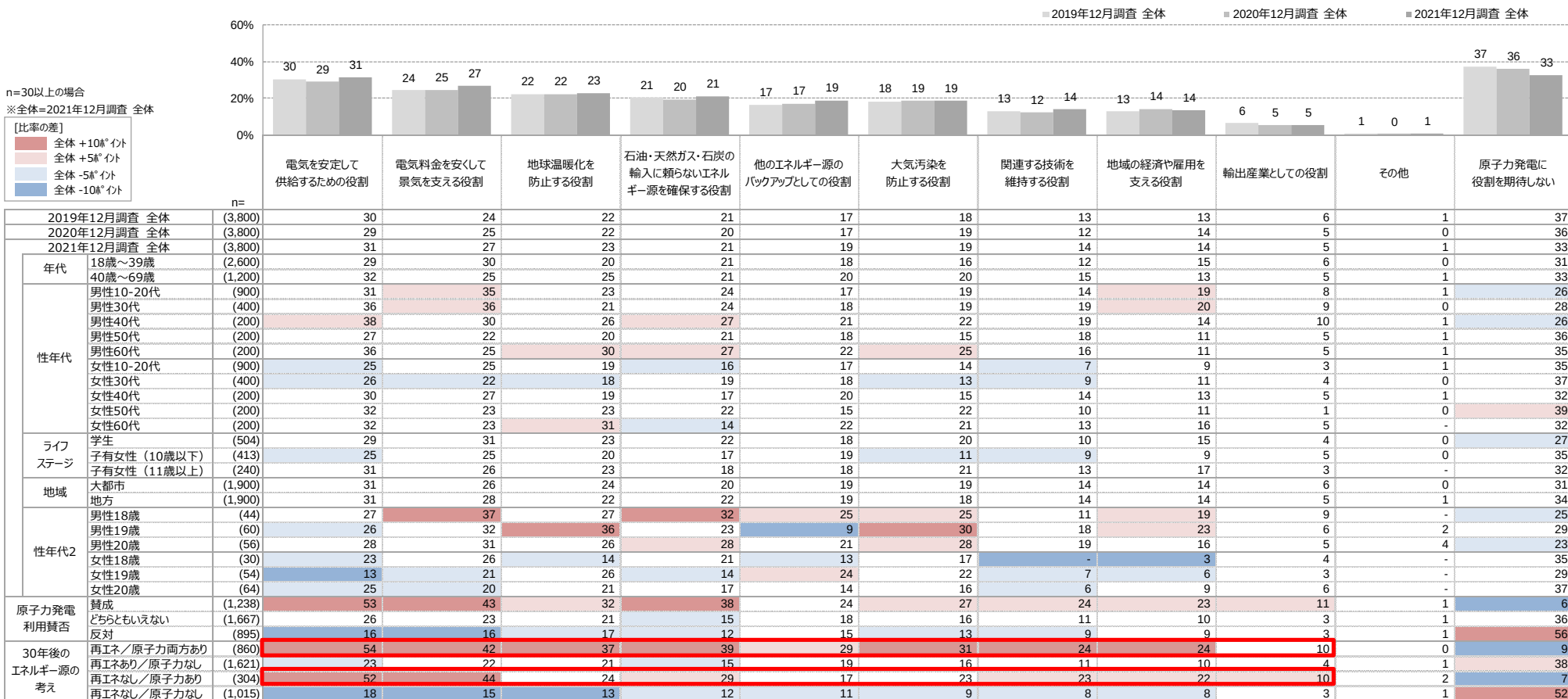
- ・ 原発利用賛否別では、賛成層で各スコアが高い。
- ・ 30年後のエネルギー源の考え別では、原子力あり層で全般的にスコアが高い。

Q20 あなたは、30年後の日本において、「原子力発電」にどのような役割を期待しますか。以下のうち、あてはまるとお考えのものをすべてお選びください。

※30年後の日本において、「原子力発電」が利用されているとして、お答え下さい。

MA

※全体ベース



※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

「2050年カーボンニュートラル」実現のため、原子力発電が必要か

■『2050年カーボンニュートラル』実現について、原子力発電が必要が36%、不要が21%。どちらともいえないが42%で最も高い割合。

- ・ 性年代別でみると、女性よりも男性で必要との回答が上回る。また、男性では若年層ほどスコアが高まる傾向。
- ・ 再稼動に反対の人でも、14%が原子力発電が必要、約3割がどちらともいえないという考えを持っている。
- ・ 行動レベル別では、高関与層ほど、原子力発電が必要との回答が高まる。

Q21 政府は「我が国は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」と宣言しています。
あなたは、日本が「2050年カーボンニュートラル」を実現するために、原子力発電が必要だと思いますか？

SA

n=30以上の場合

※全体ベース

※全体=2021年12月調査 全体

[比率の差]



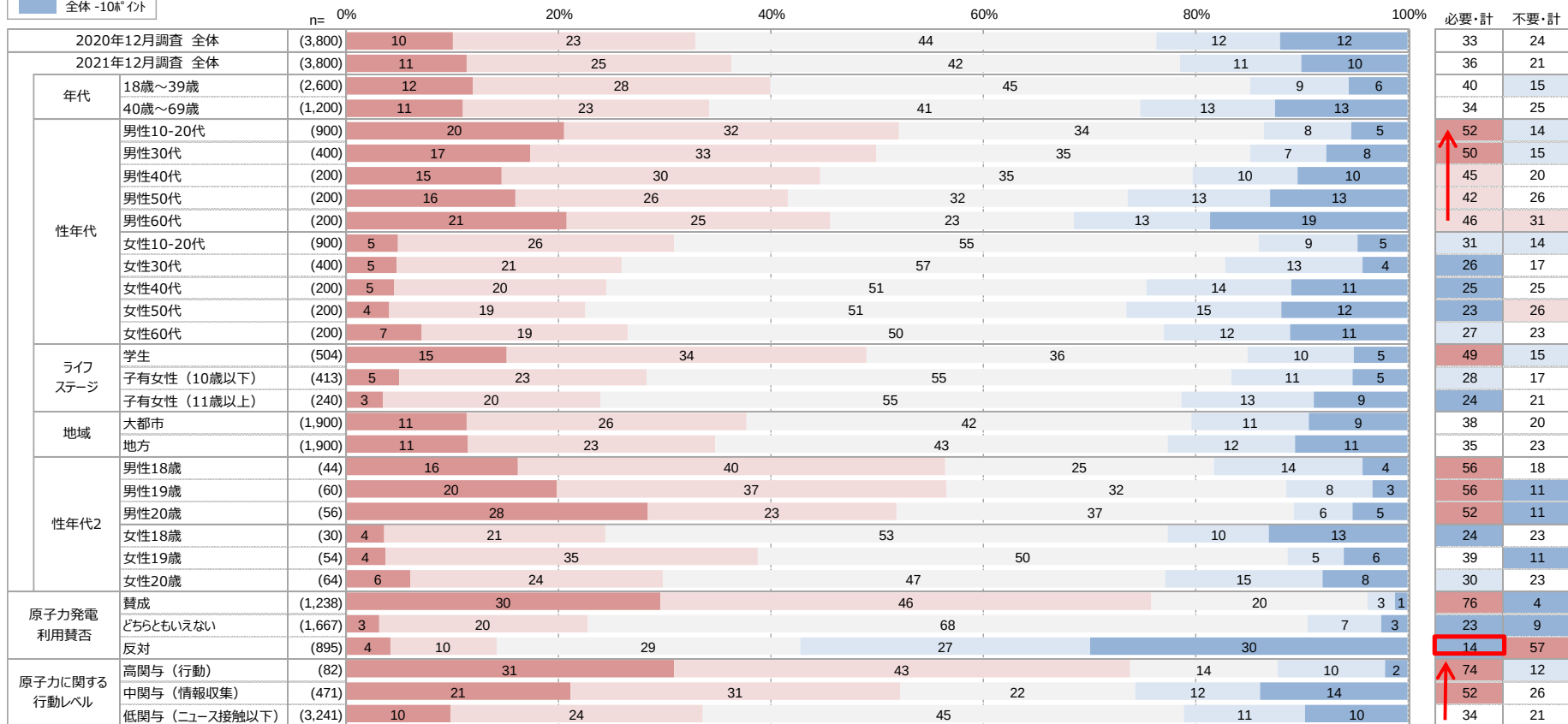
必要だと思う

どちらかという必要だと思う

どちらともいえない

どちらかという必要だと思わない

必要だと思わない



※必要・計（「必要だと思う」+「どちらかという必要だと思う」）

※不要・計（「どちらかという必要だと思わない」+「必要だと思わない」）

原子力発電所の運転年数・延長規定認知

■ 40年運転および20年運転延長が可能であることについて、認知が49%、非認知が51%。

- ・ 性年代別でみると、女性よりも男性で認知が上回る。また、男女ともに高年齢ほどスコアが高まる傾向。
- ・ 行動レベルが高いほど認知も高まる。
- ・ 30年後のエネルギー源の考え別では、原子力あり層で認知が約6割と高い。

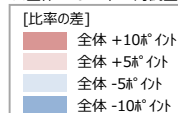
Q22 原子力発電所の運転期間は法律で40年と定められていますが、同法律には原子力規制委員会の審査に合格すれば1回だけ20年の延長運転が可能との規定があります。
あなたはアンケートに答える前に、運転の年数制限および延長規定のことを知っていましたか？

MA

n=30以上の場合

※全体ベース

※全体=2021年12月調査 全体

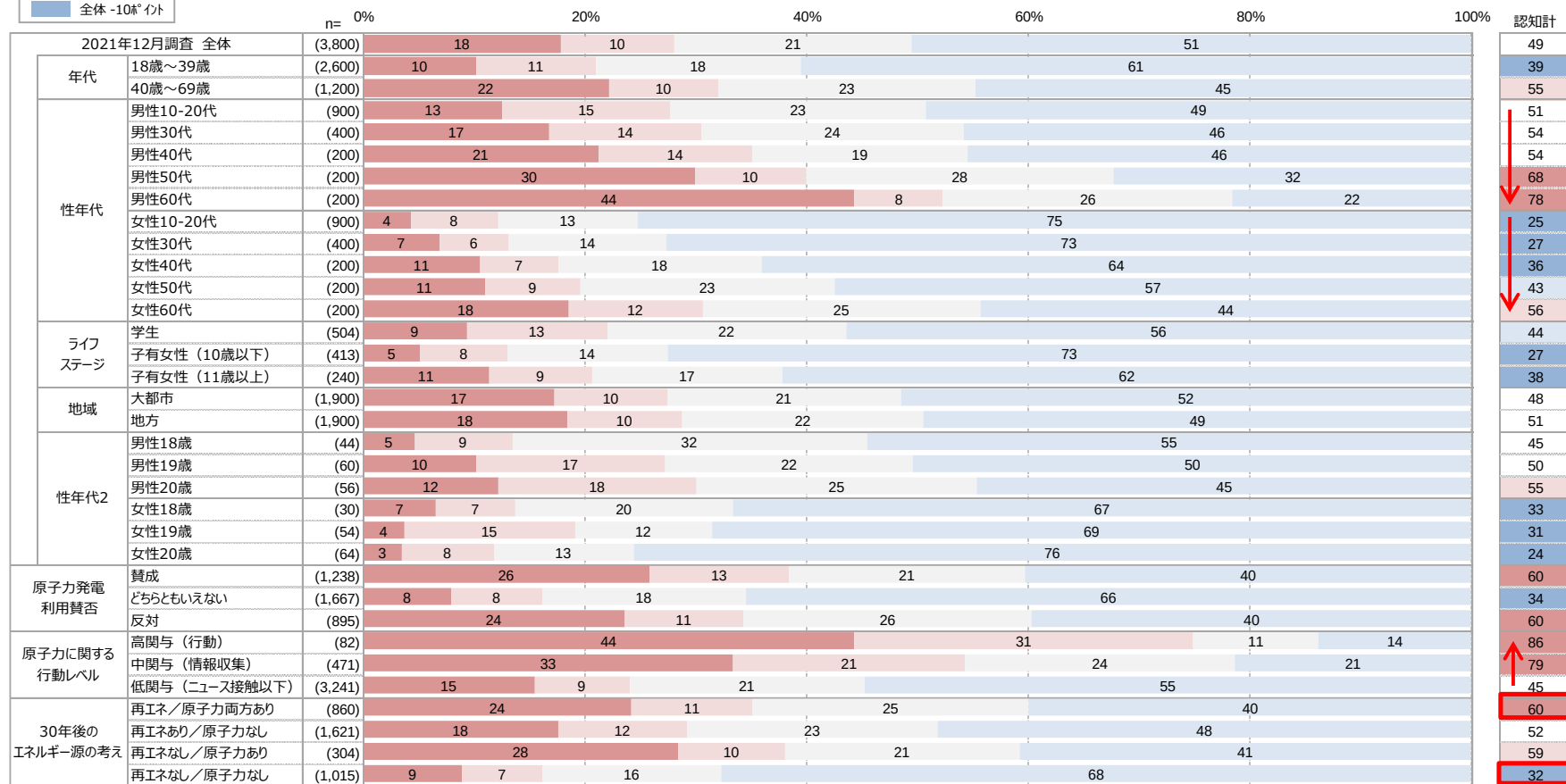


■ 40年運転および20年運転延長可能を知っていた

■ 40年運転を知っていたが、運転延長については知らなかった

■ 原子力発電所の運転に年数制限があることは知っていた

■ 原子力発電所の運転に年数制限があることは知らなかった



※認知計（「40年運転および20年運転延長可能を知っていた」～「原子力発電所の運転に年数制限があることは知っていた」）

第6次エネルギー基本計画認知

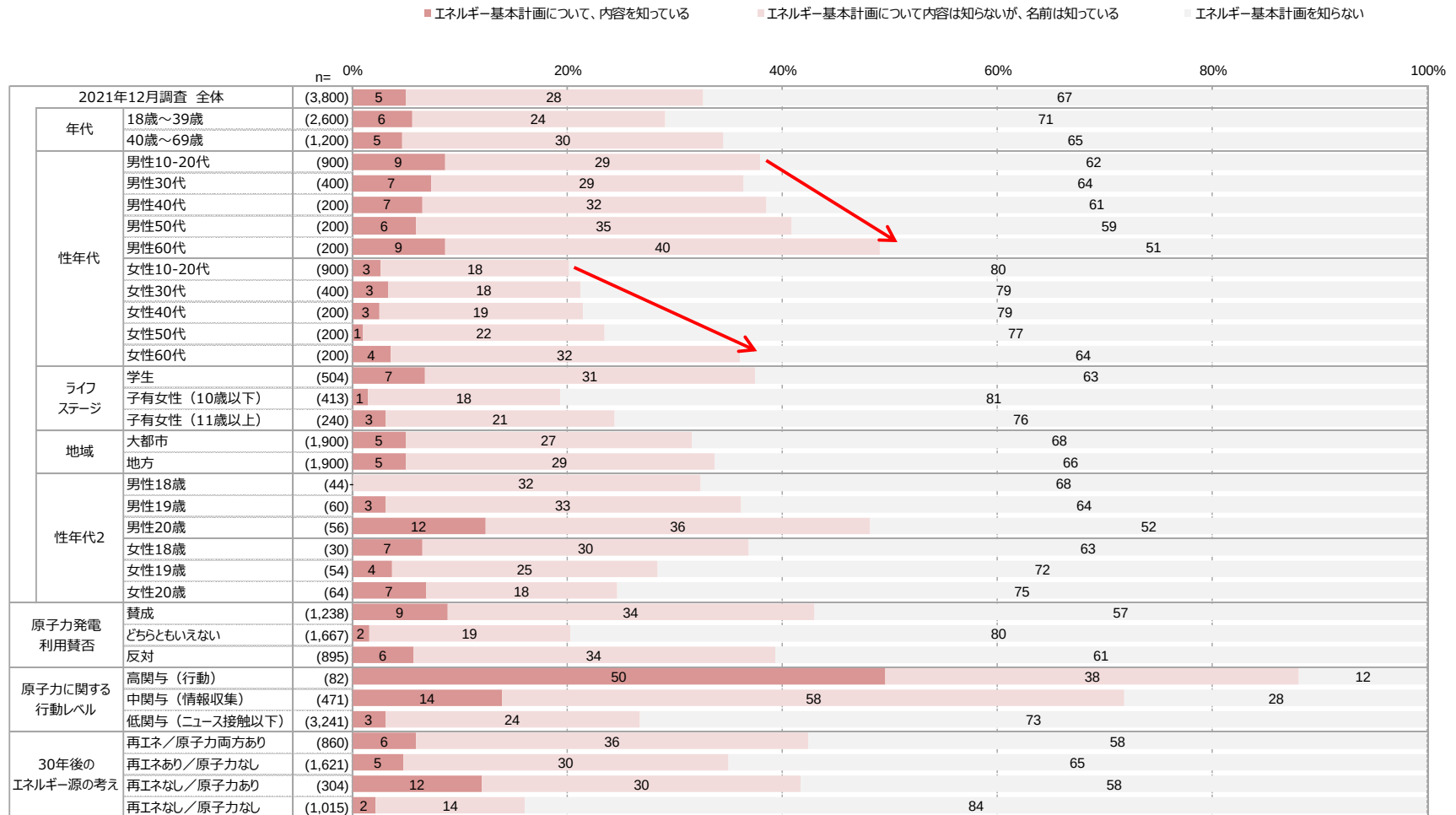
■ エネルギー基本計画について、内容認知が5%、名称認知が28%。非認知が67%で最多を占める。

- ・ 性年代別でみると、女性よりも男性で認知率が上回る。また、男女ともに高年層ほど認知が高まる傾向。男性18-20歳は年齢が上がるにつれ認知率が上がるが、女性18-20歳は年齢が下がるにつれ認知率が上がる傾向にある。
- ・ 行動レベルが高いほど認知も高まる。
- ・ 30年後のエネルギー源の考え別では、原子力あり層で認知が高め。

Q23 今年10月22日に第6次エネルギー基本計画が閣議決定されました。エネルギー基本計画を知っていますか？

MA

※全体ベース



普段情報を得ている媒体

■ 普段情報を得ている媒体は、「テレビ」が最多。以下、「ポータルサイト・ニュースサイト」「SNS」が次ぐ。

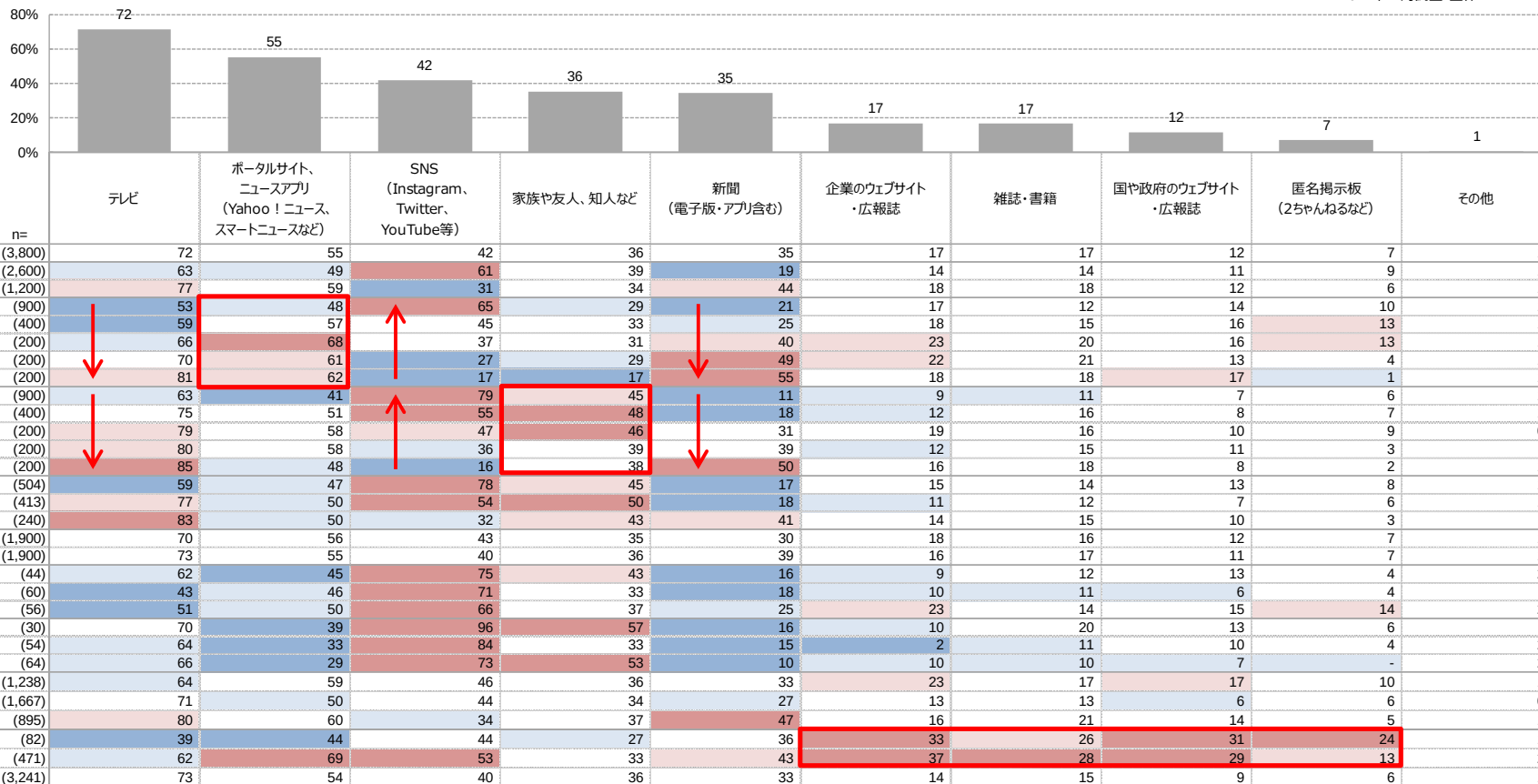
- ・ 性年代別では、男女とも年代が高くなるほど「テレビ」「新聞」が高まる。一方、「SNS」は若年層で高い。女性は「家族・友人・知人など」、男性は「ポータルサイト」がそれぞれ高い。
- ・ 行動レベル別では、高関与・中関与層で「企業の広報誌」「雑誌・書籍」「国や政府の広報誌」「匿名掲示板」が高い。

Q24 以下のうち、あなたが普段、情報を得ているものをすべてお選びください。

MA

※全体ベース

■ 2021年12月調査 全体



※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

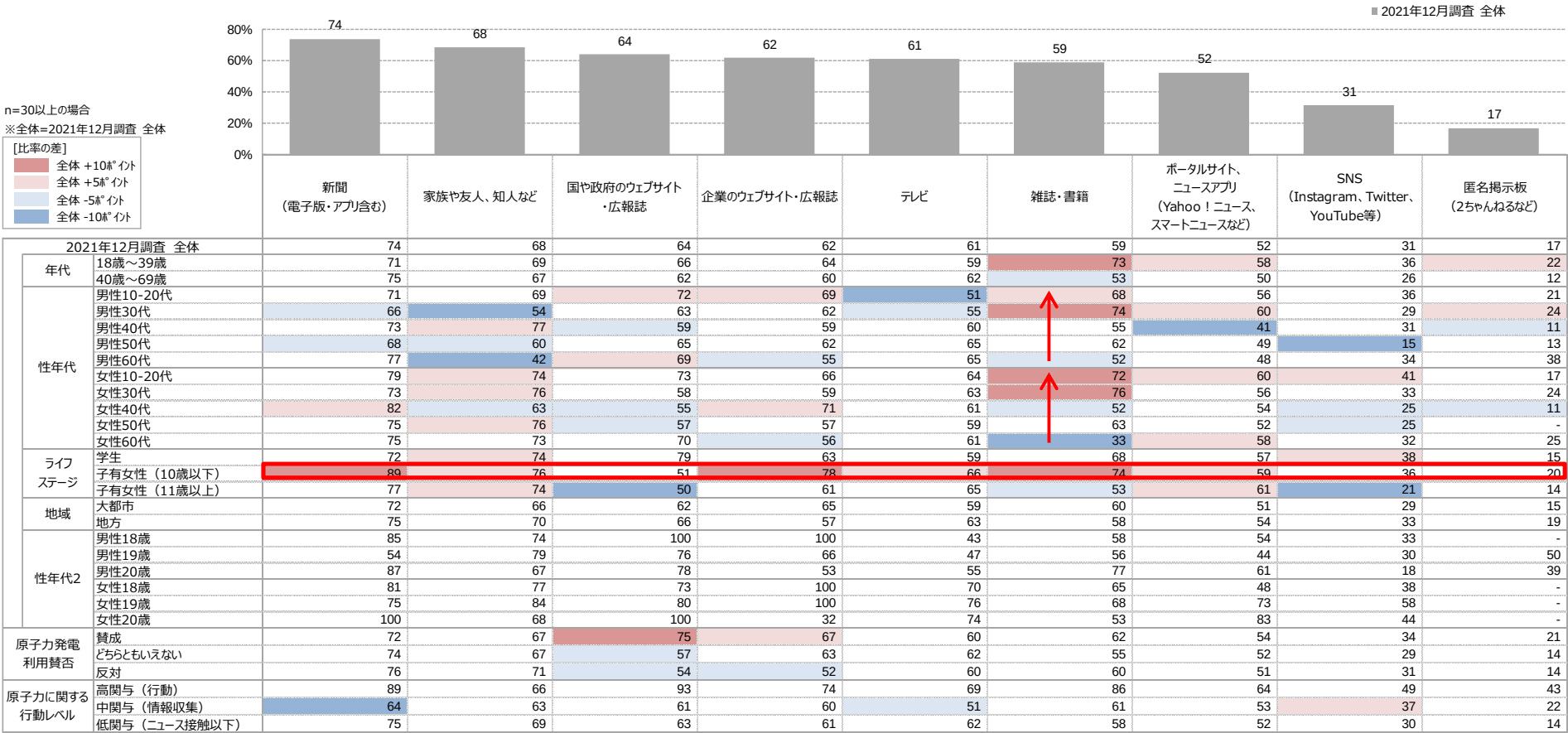
各発信源からの情報に対する信用度（信用・計）

- 信用度が高い媒体は、「新聞」「家族や友人、知人」「国や政府の広報誌」など。
- ・ 性年代別では、男女とも若年層で「雑誌・書籍」の信用度が高い。ライフステージ別では、子有女性（10歳以下）のスコアが全般的に高い。
- ・ 原子力利用賛成層では、「国や政府の広報誌」「企業の広報誌」のスコアが高い。

Q25 以下の発信源から発信される情報について、あなたはどの程度信用しますか。

SA

※利用媒体ベース



※「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

【参考】各発信源からの情報に対する信用度（n数表）

Q25 以下の発信源から発信される情報について、あなたはどの程度信用しますか。

SA

※利用媒体ベース

		新聞 (電子版・アプリ含む)	家族や友人、知人など	国や政府のウェブサイト ・広報誌	企業のウェブサイト・広報誌	テレビ	雑誌・書籍	ポータルサイト、 ニュースアプリ (Yahoo! ニュース、 スマートニュースなど)	SNS (Instagram, Twitter、 YouTube等)	匿名掲示板 (2ちゃんねるなど)	(n)
2021年12月調査 全体		1,311	1,349	451	638	2,719	629	2,107	1,579	265	
年代	18歳～39歳	255	531	153	192	859	190	674	836	127	
	40歳～69歳	1,056	818	298	447	1,860	440	1,433	743	138	
性年代	男性10～20代	73	104	49	61	190	44	171	230	37	
	男性30代	86	111	55	62	202	53	193	153	46	
	男性40代	176	136	69	102	294	88	299	164	57	
	男性50代	194	117	51	88	277	83	241	106	16	
	男性60代	203	62	62	68	299	67	227	62	5	
	女性10～20代	37	155	24	31	216	39	140	271	20	
	女性30代	58	160	26	38	251	54	169	183	24	
	女性40代	137	201	44	81	344	71	252	207	39	
	女性50代	156	156	42	46	320	60	230	144	12	
	女性60代	191	147	30	61	325	70	184	61	9	
ライフ ステージ	学生	34	92	26	30	120	29	96	159	17	
	子有女性（10歳以下）	62	171	24	38	262	41	170	185	21	
	子有女性（11歳以上）	193	203	46	64	385	70	233	149	15	
地域	大都市	579	671	236	343	1,359	311	1,088	825	127	
	地方	733	678	214	295	1,359	318	1,019	755	137	
性年代2	男性18歳	3	8	2	2	11	2	8	13	1	
	男性19歳	4	8	2	2	11	3	11	18	1	
	男性20歳	6	8	3	5	12	3	11	15	3	
	女性18歳	2	7	2	1	8	2	5	12	1	
	女性19歳	3	7	2	0	14	2	7	18	1	
	女性20歳	3	13	2	2	17	2	7	18	0	
原子力発電 利用賛否	賛成	375	410	199	260	738	195	670	522	117	
	どちらともいえない	424	536	99	201	1,109	200	781	685	90	
	反対	511	403	153	177	873	235	657	373	57	
原子力に関する 行動レベル	高関与（行動）	20	15	18	19	22	15	25	25	13	
	中関与（情報収集）	181	137	120	156	259	117	285	221	54	
	低関与（ニュース接触以下）	1,110	1,194	313	464	2,434	497	1,796	1,330	197	

※前ページ「2021年12月調査 全体」のスコアで降順ソート

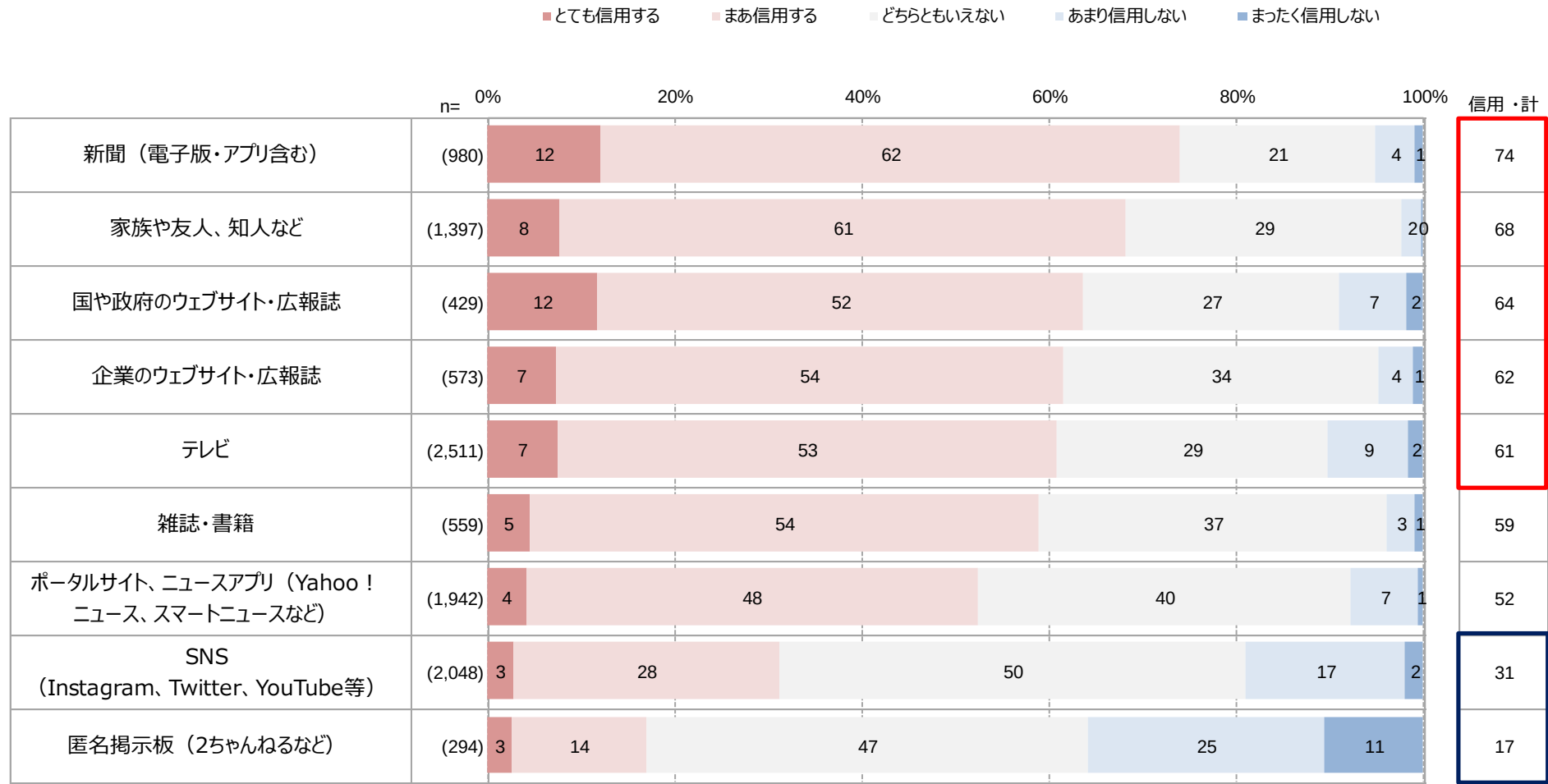
各発信源からの情報に対する信用度

- 発信源の中で情報に対する信用度が高いのは、「新聞」「家族や友人、知人」「国や政府の広報誌」「企業の広報誌」「テレビ」となっており、6割超。
- 一方、「SNS」は約3割、「匿名掲示板」は2割弱の信用度にとどまる。

Q25 以下の発信源から発信される情報について、あなたはどの程度信用しますか。

SA

※利用媒体ベース



※信用・計（「とても信用する」+「まあ信用する」）
※「信用・計」のスコアで降順ソート



株 式 会 社 マ ク ロ ミ ル

フリーコール : 0120-096-371